平成２８年度
（２０１６年）

農作物有害動植物発生予察事業年報

島根県農業技術センター
島 根 県 病 害 虫 防 除 所

目　　次

Ⅰ.事業の目的…… 1
Ⅱ.事業の実施の方針と概要…… 1
Ⅲ.事業対象有害動植物の種類…… 1
Ⅳ.事業実施組織と本年度の実施方法…… 2
　1.病害虫防除所における予察事業担当者…… 2
　2.病害虫防除員…… 2
　3.予察圃場設置一覧…… 2
　4.予察灯・フェロモントラップの設置一覧…… 2
Ⅴ.事業内容…… 3
　1.平成28年度における調査観察成績…… 3
　　Ⅰ）　普通作物等…… 3
　　（Ⅰ）イネ…… 3
　　1．イネの生育状況…… 3
　　2．病害虫に関する調査結果…… 3
　　1）稲こうじ病…… 3
　　2）葉いもち…… 3
　　3）穂いもち…… 4
　　4）縞葉枯病…… 5
　　5）ばか苗病…… 5
　　6）もみ枯細菌病…… 5
　　7）紋枯病…… 5
　　8）イネミズゾウムシ…… 6
　　9）コブノメイガ…… 7
　　10）セジロウンカ…… 8
　　11）ツマグロヨコバイ…… 10
　　12）トビイロウンカ…… 11
　　13）ニカメイガ…… 12
　　14）斑点米カメムシ類…… 13
　　15）ヒメトビウンカ…… 14
　　16）フタオビコヤガ…… 15
　　（Ⅱ）ムギ…… 16
　　1．ムギの生育状況…… 16
　　2．病害虫に関する調査結果…… 16
　　1）赤かび病、うどんこ病、さび病類、斑葉病、雲形病…… 16
　　（Ⅲ）ダイズ…… 17
　　1．病害虫に関する調査結果…… 17
　　1）アブラムシ類…… 17
　　2）吸実性カメムシ類…… 17
　　3）ハスモンヨトウ…… 18

Ⅱ）果樹 19
（Ⅰ）ナシ 19
１．病害虫に関する調査結果 19
１）黒斑病、黒星病 19
２）ナシヒメシンクイ 21
３）ナシオオシンクイガ 22
４）モモシンクイガ 22
５）チャノコカクモンハマキ 23
６）チャハマキ 23
７）ハダニ類、カイガラムシ類 24
８）アブラムシ類 24
（Ⅱ）カキ 25
１．病害虫に関する調査結果 25
１）炭疽病 25
２）うどんこ病、円星落葉病、角斑落葉病、灰色かび病、果実黒すじ病 25
３）カキミガ 28
４）カメムシ類 28
５）チャノコカクモンハマキ 29
６）チャハマキ 29
７）カキクダアザミウマ 29
８）フジコナカイガラムシ 29
（Ⅲ）クリ 30
１．病害虫に関する調査結果 30
１）モモノゴマダラノメイガ 30
２）クスサン 31
Ⅲ）野菜 32
（Ⅰ）キャベツ 32
１．病害虫に関する調査結果 32
１）黒腐病 32
２）菌核病、軟腐病、根こぶ病、株腐病 32
３）モンシロチョウ 32
４）コナガ 32
５）ヨトウガ 33
６）ウワバ類 33
７）アブラムシ類 33
８）ハスモンヨトウ 33
９）シロイチモジヨトウ 34
10）オオタバコガ 35
11）キスジノミハムシ 35
（Ⅱ）タマネギ 36
１．病害虫に関する調査結果 36
１）べと病 36
２）白色疫病、ボトリチス属菌による葉枯症、腐敗病・軟腐病、さび病 36

（Ⅲ）イチゴ…… 36
１．病害虫に関する調査結果…… 36
１）灰色かび病…… 39
２）うどんこ病…… 36
３）炭疽病…… 37
４）アブラムシ類…… 37
５）ハダニ類…… 37
６）コナジラミ類…… 38
Ⅳ）病害虫発生程度別面積…… 39
Ⅴ）病害虫発生経過の概要及び発生原因の解析…… 41
１．イネの病害虫…… 41
２．ムギの病害…… 42
３．ダイズの病害虫…… 42
４．ナシの病害虫…… 42
５．カキの病害虫…… 43
６．夏秋キャベツの病害虫…… 44
７．冬キャベツの病害虫…… 44
８．タマネギの病害虫…… 44
９．イチゴの病害虫…… 45
Ⅵ）情報の提供、諸報告に関する事項…… 46
１．情報の提供先…… 46
２．発表状況…… 46
３．発表内容…… 47
特殊報　第１号 シクラメンえそ斑紋病…… 48
技術資料　第１号 水稲　QoI剤耐性イネいもち病 …… 50
第２号 イチゴのハダニ類 …… 51
第３号 イチゴのアブラムシ類 …… 53
第４号 稲こうじ病 …… 55
第５号 ダイズ及びアブラナ科野菜等のハスモンヨトウ…… 57
Ⅶ）気象表…… 60

平成２８年度農作物有害動植物発生予察事業年報

島根県農業技術センター
島 根 県 病 害 虫 防 除 所

Ⅰ　事業の目的

病害虫の防除を適時で経済的なものとするため、病害虫の発生、農作物の生育及び気象などの状況を調査して、病害虫の発生を予察し、それに基く情報を関係者に提供する。

Ⅱ　事業実施の方針と概要

指定有害動植物に重点をおき、これらの病害虫の発生予察法の確立を図るとともに、農業普及部及び病害虫防除員などと連絡を密にし、確実な情報の収集に努め、発生予報、特殊報、注意報及びその他必要な情報をすみやかに提供して、適期防除による被害防止に努めた。また、ＪＡなど生産者団体とは絶えず緊密な連絡をとり、重要な病害虫の発生に際しては、その都度資料を提示して適切な対策について協議決定し、防除に万全を期した。

Ⅲ　事業対象有害動植物の種類

１．普通作物等

１）イネ	指　定	稲こうじ病、いもち病、縞葉枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、紋枯病、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ
２）ムギ	指　定	赤かび病、うどんこ病
３）ダイズ	指　定	アブラムシ類、吸実性カメムシ類、ハスモンヨトウ

２．野菜

１）イチゴ	指　定	うどんこ病、炭疽病、灰色かび病、アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類
２）キャベツ	指　定	菌核病、黒腐病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、コナガ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ
３）タマネギ	指　定	白色疫病、べと病、アザミウマ類

３．果樹

１）カキ	指　定	炭疽病、アザミウマ類、カイガラムシ類、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類、果樹カメムシ類
２）ナシ	指　定	黒星病、黒斑病、アブラムシ類、シンクイムシ類、ハダニ類、ハマキムシ類

４．花き

１）キク	指　定	白さび病、アザミウマ類、アブラムシ類

５．作物共通	措　定	オオタバコガ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、コナガ、果樹カメムシ類

Ⅳ　事業実施組織と本年度の実施方法

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱、同要領に準拠する。

１．病害虫防除所における予察事業担当者

職　名	氏　　名	担　当
科　　長	奈良井 祐 隆	虫　害
専門研究員	磯 田　　淳	病　害
〃	澤 村 信 生	虫　害
主任研究員	福 間 貴 寿	病　害
	永 島　　進	病　害
研　究　員	藤 原 証 太	病　害
〃	角　菜 津 子	虫　害
	山 本 隼 佑	虫　害

２．病害虫防除員

水稲、果樹に関する病害虫防除員は本県の主要産地である市町村に配置している。水稲17名。

３．予察圃場設置一覧

１）県予察圃場

種　類	設 置 場 所	品　　種　　等
イ　　ネ	出雲市芦渡町	コシヒカリ
ム　　ギ	〃	農林61号、アサカゴールド
ナ　　シ	〃	二 十 世 紀　（４１年生樹）
カ　　キ	〃	富　有　（４１年生樹）

２）地区予察圃場

種　　類	設　置　地　点　名
イ　　ネ	邑智郡川本町田窪
ナ　　シ	安来市中津町
カ　　キ	出雲市東福町

４．予察灯・フェロモントラップ設置一覧

病害虫名	設　　置　　地　　点　　名	備　　考
ウ　ン　カ　類	出雲市芦渡町	予察灯
ウ　ン　カ　類	出雲市芦渡町	粘着誘殺灯
ニカメイチュウ	出雲市芦渡町	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ
モモシンクイガ	安来市中津町	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ
ナシヒメシンクイ	安来市中津町	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ
ヨ　ト　ウ　ガ　類	益田市飯田町	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ

Ⅴ　事業内容
１．平成２８年度における調査観察成績
Ⅰ）普通作物等
（Ⅰ）イネ
１．イネの生育状況
１）生育概況
育苗期間は気温の高温・日照不足により徒長気味となったものや、気温の日較差の拡大による立枯病が散見されたが、全体的に順調な生育であった。田植期においても概ね好天に恵まれ、５月２０日には県全体の水田の約８割で田植えが行われた。
活着期から分げつ期にかけても高温で推移し、一部ではガス湧きや下葉枯れ等も発生したが全般的に茎数増加が早く、旺盛な生育が見られた。作況試験では遅植えを中心に生育が早まるとともに草丈も平年に比べて高くなった。
７月に入ってからも最高気温が高く推移し、平坦部の５月中旬以降植え「コシヒカリ」「きぬむすめ」の幼穂形成期は平年に比べ４～５日早まり、出穂期はすべての品種が４～７日早まった。また、有効茎歩合は並みでしたが最高茎数が平年を下回ったために、穂数は平年に比べやや少なくなった。
登熟期間では８月第６半旬をのぞき気温は平年並みで推移したが、それまでの生育が順調であったため、成熟期も平年に比べ４～７日早く、中山間でも２日早くなった。収量構成要素を見ると、穂数については有効茎歩合は平年並みであったが、最高茎数が少なくなったため少なくなった。一方、1穂籾数は穂数が少なかったことの補償作用、幼穂形成期が高温・多照に推移したことから平坦部の遅植えを除きやや多くなった。
なお、稔実、粒の肥大、充実ともに順調であったことから登熟はやや良となった。
以上の結果水稲の作柄は10 a当り収量で528kgで、作況指数は104となった。
２）検査概況
平成28年産の検査数量は52,524 tで、そのうち「うるち米」が49,597 t（一等米比率67.5%）「もち米」が1,987t（48.6%）、「醸造用米」が940t（70.4 %）となった。主な格落ち理由は「整粒不足」「心白腹白」であり、近年この傾向は変わっていない。
（2016年産水稲・麦類・大豆の作柄概況（農業技術センター技術普及部）より抜粋）

２．病害虫に関する調査結果
１）稲こうじ病
（１）発病状況調査
①巡回における調査

調査時期	品種	発生圃場率	発病株率	調査穂数	発病穂率
８月下旬	主にコシヒカリ	0　%	0　%	33822　本	0　%

注）70圃場、1750株調査

２）葉いもち
（１）発病状況調査
①定点における調査
○県予察圃場（出雲市芦渡町）

区　別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度	病斑型
普通肥料区	6.15	37.0cm	20.8 本	0 %	0	
	24	54.0	22.1	0	0	
	7. 5	65.3	21.7	0	0	
	13	81.9	21.1	0	0	
	25	98.4	22.0	0	0	
	8. 4	105.1	21.7	0	0	
窒素増量区	6.15	39.1	22.0	0	0	
	24	47.0	22.0	0	0	
	7. 5	57.2	21.6	0	0	
	13	68.8	21.3	0	0	
	25	90.6	21.9	0	0	
	8. 4	103.6	21.1	0	0	

注）調査株数：50株、品種：コシヒカリ(5月６日植え)

○地区予察圃場（川本町田窪）

区　　別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6.16	39.3 cm	8.7 本	0 %	0
	27	54.8	14.4	0	0
	7. 6	67.3	19.3	0	0
	14	74.8	21.9	0	0
	27	81.6	23.4	0	0
	8. 5	88.0	23.2	0	0

注）調査株数：50株、品種：きぬむすめ

②巡回による調査（特定圃場）

ア．出雲市

調査月日	発生圃場率	発病株率	発病度
6.15	0 %	0 %	0
24	0	0	0
7. 5	0	0	0
13	0	0	0
25	0	0	0
8. 5	0	0	0

注）20圃場、500株調査

イ．雲南市（大東町、加茂町）

調査月日	発生圃場率	発病株率	発病度
6.15	0 %	0 %	0
24	30.0	10.8	2.7
7. 5	50.0	18.4	4.6
15	50.0	22.0	5.5
25	55.0	22.8	5.7
8. 5	55.0	22.8	5.7

注）20圃場、500株調査

ウ．大田市、邑智郡、江津市

調査月日	発生圃場率	発病株率	発病度
6.16	0 %	0 %	0 %
27	0	0	0
7. 6	3.3	1.7	0.4
14	6.7	5.6	1.4
27	10.0	5.7	1.4
8. 5	10.0	5.7	1.4

注）30圃場、750株調査

③置き苗の発病状況調査

調査時期	発生地点率*
６月第１半旬	1.6 %

注）*：置き苗放置圃場に対する割合

３）穂いもち

（１）発病状況調査

①定点における調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

区　　別	８月25日	
	発病株率	発病穂率
普通肥料区	0 %	0 %
窒素増量区	0	0

注）調査株数：50株

○地区予察圃場（川本町田窪）

区　　別	８月24日	
	発病株率	発病穂率
普通肥料区	0 %	0 %

注）調査株数：50株

②巡回における調査

調 査 地 域	調査月日	調査圃場数	発生圃場率	調査穂数	発病穂率
出雲市	8.25	20	0 %	9073	0 %
雲南市（大東町、加茂町）	8.25	20	25.0	9215	1.45
大田市、邑智郡、江津市	8.24	30	6.3	15534	0.43
合　計・平　均		70	11.4	33822	0.59

４）縞葉枯病

（１）発病状況調査

①巡回における調査

調査時期	調査圃場数	発生圃場率	調査株数	発病株率	発病度
６月中旬	70	0 %	1750 株	0 %	0
６月下旬	70	0	1750	0	0
７月上旬	70	0	1750	0	0
７月中旬	70	0	1750	0	0
７月下旬	70	0	1750	0	0
８月上旬	70	0	1750	0	0
８月下旬	70	0	1750	0	0

５）ばか苗病

（１）発病状況調査

①巡回における調査

調査時期	調査圃場数	発生圃場率	調査株数	発病株率
６月下旬	70	0 %	1750 株	0 %
７月下旬	70	0	1750	0

６）もみ枯細菌病

（１）発病状況調査

①巡回における調査

調査時期	品種	発生圃場率	発病株率	調査穂数	発病穂率
８月下旬	主にコシヒカリ	0 %	0 %	33822 本	0 %

注）70圃場、1750株調査

７）紋枯病

（１）発病状況調査

①定点における調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

区　別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料	6.15	37.0 cm	20.8 本	0 %	0
	24	54.0	23.6	0	0
	7. 5	65.3	21.8	0	0
	13	81.9	22.4	0	0
	25	98.4	21.8	2.0	0.5
	8. 4	105.1	22.7	2.0	1.0
	15	105.3	23.3	2.0	1.5
	25	105.3	23.3	2.0	1.5
	9. 6	105.3	23.3	2.0	2.0
窒素増量区	6.15	36.7 cm	22.0 本	0 %	0
	24	52.7	22.0	0	0
	7. 5	63.9	21.6	0	0
	13	78.8	21.3	0	0
	25	90.8	21.9	0	0
	8. 4	102.5	21.1	0	0
	15	102.7	21.3	0	0
	25	102.7	21.3	0	0
	9. 6	102.7	21.3	0	0

注）調査株数：50株、品種：コシヒカリ(5月６日植え)

○地区予察圃場（川本町田窪）

区　　別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6.16	39.3 cm	8.7 本	0 %	0
	27	54.8	14.4	0	0
	7. 6	67.3	19.3	0	0
	14	74.8	21.9	0	0
	27	81.6	23.4	0	0
	8. 5	88.0	23.2	0	0
	24	101.6	23.2	0	0

注）調査株数：50株、品種：きぬむすめ

②巡回による調査（特定圃場）

ア．出雲市

調査月日	発生圃場率	発病株率	発病度
6.15	0 %	0 %	0
24	0	0	0
7. 5	5.0	0.4	0.10
13	10.0	0.6	0.15
25	15.0	0.8	0.20
8. 4	20.0	1.2	0.30
25	25.0	2.0	0.65

注）20圃場、500株調査

イ．雲南市（大東町、加茂町）

調査月日	発生圃場率	発病株率	発病度
6.15	5.0 %	0.2 %	0.05
24	5.0	0.2	0.05
7. 5	5.0	0.2	0.05
15	25.0	6.0	1.50
24	40.0	8.2	2.05
8. 4	45.0	9.0	2.25
25	45.0	14.4	7.10

注）20圃場、500株調査

ウ．大田市、邑智郡、江津市

調査月日	発生圃場率	発病株率	発病度
6.16	0 %	0 %	0
27	0	0	0
7. 6	0	0	0
14	3.3	0.1	0.03
27	6.7	0.3	0.07
8. 5	6.7	0.3	0.07
24	13.3	0.5	0.30

注）30圃場、750株調査

8）イネミズゾウムシ

（1）予察灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町	
月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 均
4. 1	0	0.0	6. 1	0	1.1	8. 1	5	6.4
2	0	0.0	2	0	1.4	2	2	7.9
3	0	0.0	3	0	0.5	3	1	3.0
4	0	0.0	4	0	1.9	4	0	2.0
5	0	0.0	5	0	12.5	5	0	0.7
6	0	0.2	6	0	30.3	6	0	1.5
5. 1	2	9.7	7. 1	0	18.4	9. 1	0	0.9
2	0	12.4	2	1	14.7	2	0	0.0
3	0	3.1	3	4	6.5	3	0	0.1
4	0	7.1	4	7	11.8	4	0	0.0
5	2	5.1	5	14	9.4	5	0	0.0
6	5	5.6	6	12	11.4	6	0	0.0
						総 計	55	185.6

（２）巡回による調査
①５月23～26日調査

		被害程度別株数(25株/圃場)					
	調査圃場数	A	B	C	D	E	計
東部平坦	24	0	8	34	137	421	600
東部山間	6	0	0	0	22	128	150
西部平坦	12	0	0	2	7	291	300
合　　計	42	0	8	36	166	840	1050
平　　均		0	0.19	0.86	3.95	20.0	25.0
被害株率(%)							20.0
被 害 度							6.24

イネミズ被害程度（被害葉率）Ａ：91%以上，Ｂ：61～90%，Ｃ：31～60%，Ｄ：１～30%，Ｅ：０

9）コブノメイガ
（１）予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況
①半旬別誘殺表

地　点	出雲市芦渡町			
	６０W白熱		２０W粘着	
月．半旬	本 年	平 年	本 年	平 年
６．１	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
７．１	0	0.0	0	0.6
2	0	0.0	0	0.1
3	0	0.1	0	0.2
4	0	0.0	0	0.3
5	0	0.1	0	0.0
6	0	0.0	0	0.3
８．１	0	0.0	0	1.9
2	0	0.0	0	0.7
3	0	0.1	0	0.2
4	0	0.0	0	0.2
5	0	0.6	0	1.0
6	0	0.2	0	0.1
９．１	0	0.0	0	1.5
2	0	0.1	0	2.7
3	0	0.1	0	5.2
4	0	0.1	1	1.9
5	0	0.0	0	0.8
6	0	0.0	1	1.2
総　計	0	1.4	2	18.9

注）予察灯は４～９月（４～５月は無誘殺のためデータ省略）、粘着誘殺灯は６～９月の間設置した。

（２）定点における調査
①６月27～30日調査

	調査圃場数	50株当り成虫数	25株当り被害株数
東部平坦	24	0	0
東部山間	6	0	0
西部平坦	16	0	0
西部山間	0	0	0
合　計	46	0	0
平　均		0	0
圃場率(%)		0	0
被害株率(%)			0

②８月３～５日調査

	調査圃場数	50株当り成虫数	25株当り被害株数
東部平坦	24	0	3
東部山間	6	1	1
西部平坦	16	1	8
西部山間	2	0	2
合　計	48	2	14
平　均		0.04	0.3
圃場率(%)		4.2	22.9
被害株率(%)			1.2

③８月26～31日調査

	調査圃場数	50株当り成虫数	25株当り被害株数
東部平坦	22	3	0
東部山間	0	0	0
西部平坦	16	10	6
西部山間	2	0	0
合　計	40	13	6
平　均		0.33	0.2
圃場率(%)		25	10
被害株率(%)			0.6

１０）セジロウンカ
（１）予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況
①半旬別誘殺表

地　点	出雲市芦渡町			
	６０W白熱		２０W粘着	
月．半旬	本年	平年	本年	平年
６．１	0	0.0	0	0.0
２	0	0.0	0	0.0
３	0	0.0	0	0.0
４	1	1.0	1	0.0
５	13	19.7	0	0.0
６	1	28.6	2	0.0
７．１	5	29.9	1	20.4
２	4	8.6	0	68.1
３	14	235.0	37	565.2
４	0	8.3	0	61.8
５	1	5.3	0	10.0
６	1	15.2	7	25.9
８．１	1	3.3	0	17.2
２	1	4.2	7	16.0
３	11	20.3	12	25.9

4	28	5.9	26	9.4
5	4	9.4	10	24.1
6	5	33.1	34	200.7
９．１	2	7.1	1	19.0
2	0	3.6	7	7.2
3	0	2.1	1	2.7
4	6	2.5	2	3.0
5	0	1.0	0	1.3
6	3	0.0	17	0.1
総 計	101	444.1	165	1085.0

注）予察灯は４～９月（４～５月はデータ省略）、粘着誘殺灯は６～９月の間設置した。

（２）定点と巡回による調査

①６月27～30日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	55	0	55
東部山間	6	7	0	7
西部平坦	16	77	12	89
西部山間	0	0	0	0
合　計	46	139	12	151
平　均		3	0.3	3.3
圃場率(%)		71.7	13	73.9
成虫比				92.1

注）調査方法：50株払い落し（粘着板使用）

②８月３～５日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	66	102	168
東部山間	6	8	12	20
西部平坦	16	53	32	85
西部山間	2	7	14	21
合　計	48	134	160	294
平　均		2.8	3.3	6.1
圃場率(%)		66.7	60.4	79.2
成虫比				45.6

注）調査方法：25株払い落し（粘着板使用）

③８月26～31日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	22	35	25	60
東部山間	0	0	0	0
西部平坦	16	44	34	78
西部山間	2	0	0	0
合　計	40	79	59	138
平　均		2	1.5	3.5
圃場率(%)		75	50	77.5
成虫比				57.2

注）調査方法：25株払い落し（粘着板使用）

１１）ツマグロヨコバイ

（１）予察灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町	
月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 均
４．１	0	0.0	６．１	0	0.1	８．１	66	47.3
2	0	0.0	2	0	0.2	2	12	19.9
3	0	0.0	3	3	0.1	3	4	33.7
4	0	0.1	4	9	0.4	4	0	18.1
5	0	0.0	5	10	3.1	5	1	11.6
6	0	0.0	6	2	3.6	6	1	23.6
５．１	0	1.6	７．１	29	6.7	９．１	208	30.7
2	0	0.4	2	24	9.7	2	17	22.5
3	0	0.0	3	13	14.7	3	0	14.7
4	0	0.0	4	15	13.4	4	2	8.0
5	0	0.0	5	355	27.3	5	0	4.9
6	0	0.0	6	378	54.5	6	4	2.3
						総計	1153	373.2

（２）定点と巡回による調査

①６月27～30日調査

	調査圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	14	26	40
東部山間	6	0	0	0
西部平坦	16	4	15	19
西部山間	0	0	0	0
合　計	46	18	41	59
平　均		0.4	0.9	1.3
圃場率(%)		13	17.4	21.7
成虫比				30.5

注）調査方法：50株払い落し（粘着板使用）

②８月３～５日調査

	調査圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	35	99	134
東部山間	6	19	33	52
西部平坦	16	6	9	15
西部山間	2	4	2	6
合　計	48	64	143	207
平　均		1.3	3	4.3
圃場率(%)		33.3	33.3	39.6
成虫比				30.9

注）調査方法：25株払い落し（粘着板使用）

③８月26～31日調査

	調査圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	22	90	225	315
東部山間	0	0	0	0
西部平坦	16	14	13	27
西部山間	2	4	42	46
合　計	40	108	280	388
平　均		2.7	7	9.7
圃場率(%)		57.5	55	67.5
成虫比				27.8

注）調査方法：25株払い落し（粘着板使用）

１２）トビイロウンカ

（１）予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

地　点	出雲市芦渡町			
	６０Ｗ白熱		２０Ｗ粘着	
月．半旬	本 年	平 年	本 年	平 年
６．１	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.1
７．１	0	0.2	0	0.1
2	0	0.4	0	1.1
3	0	0.1	0	0.0
4	0	0.9	0	4.2
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.2
８．１	0	0.3	0	1.0
2	0	0.6	0	0.2
3	0	1.0	0	0.1
4	0	0.2	0	0.8
5	0	0.7	0	2.6
6	0	8.2	0	40.4
９．１	0	0.5	0	4.5
2	0	0.8	0	8.0
3	0	0.0	0	0.1
4	0	0.3	0	0.3
5	0	0.0	0	0.4
6	0	0.0	0	0.5
総 計	0	14.2	0	64.6

注）予察灯は４～９月（４～５月はデータ省略）、粘着誘殺灯は６～９月の間設置した。

（２）定点と巡回による調査

①６月27～30日調査

	調査圃場数	短翅雌	長翅雌	短翅雄	長翅雄	幼虫	合計
東部平坦	24	0	0	0	0	0	0
東部山間	6	0	0	0	0	0	0
西部平坦	16	0	0	0	0	0	0
西部山間	0	0	0	0	0	0	0
合　計	46	0	0	0	0	0	0
平　均		0	0	0	0	0	0
圃場率(%)		0	0	0	0	0	0
成虫比							0

②８月３～５日調査

	調査圃場数	短翅雌	長翅雌	短翅雄	長翅雄	幼虫	合計
東部平坦	24	0	0	0	0	0	0
東部山間	6	0	0	0	0	0	0
西部平坦	16	0	0	0	0	0	0
西部山間	2	0	0	0	0	0	0
合　計	48	0	0	0	0	0	0
平　均		0	0	0	0	0	0
圃場率(%)		0	0	0	0	0	0
成虫比							0

③８月26～31日調査

	調査圃場数	短翅雌	長翅雌	短翅雄	長翅雄	幼虫	合計
東部平坦	22	0	0	0	0	2	2
東部山間	0	0	0	0	0	0	0
西部平坦	16	0	0	0	0	0	0
西部山間	2	0	0	0	0	0	0
合　計	40	0	0	0	0	2	2
平　均		0	0	0	0	0.1	0.05
圃場率(%)		0	0	0	0	2.5	2.5
成虫比							0

１３）ニカメイガ

（１）予察灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町	
月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平　均
４．１	0	0.0	６．１	11	6.8	８．１	4	0.7
２	0	0.0	２	3	2.6	２	2	0.4
３	0	0.0	３	3	1.2	３	1	1.1
４	0	0.0	４	3	1.2	４	0	0.8
５	2	0.0	５	1	0.5	５	0	0.5
６	0	0.0	６	0	0.1	６	1	0.8
５．１	1	0.4	７．１	0	0.0	９．１	1	0.1
２	0	0.4	２	0	0.1	２	2	0.0
３	2	0.8	３	0	0.0	３	0	0.1
４	3	1.8	４	4	0.0	４	1	0.2
５	15	4.9	５	7	0.3	５	0	0.0
６	69	8.1	６	14	1.5	６	0	0.0
						総計	150	35.4

②半旬別誘殺表（フェロモントラップ）

地　点	出雲市芦渡町		地　点	出雲市芦渡町	
月．半旬	本 年	平 年	月．半旬	本 年	平 年
４．１	0	0.0	７．１	1	0.1
２	0	0.0	２	0	0.0
３	0	0.2	３	1	0.0
４	1	0.0	４	1	0.0
５	3	0.2	５	2	0.4
６	3	0.6	６	2	2.1
５．１	0	1.2	８．１	12	3.8
２	25	3.7	２	7	0.6
３	4	7.4	３	2	0.0
４	36	5.3	４	6	3.4

5	134	12.5	5	2	1.3
6	40	20.8	6	16	1.0
6．1	19	18.2	9．1	7	0.8
2	25	4.9	2	4	1.1
3	14	3.0	3	3	0.2
4	8	0.7	4	0	0.1
5	2	0.3	5	3	0.0
6	2	0.8	6	0	0.1
			総　計	385	94.8

（２）定点と巡回による調査

	6月27～30日		8月3～5日		8月26～31日	
	調査圃場数	被害株数	調査圃場数	被害株数	調査圃場数	被害株数
東部平坦	24	7	24	4	22	2
東部山間	6	0	6	1	0	0
西部平坦	16	0	16	0	16	0
西部山間	0	0	2	0	2	0
合計	46	7	48	5	40	2
平均	0.2		0.1		0.1	
圃場率(%)	6.5		6.3		5.0	
被害株率(%)	0.6%		0.4%		0.2	

注）調査方法：25株見取り調査

１４）斑点米カメムシ類

（１）予察灯によるアカスジカスミカメ成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町	
月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本　年	平　均
4．1	0	0.0	6．1	0	0.7	8．1	29	13.7
2	0	0.0	2	1	0.9	2	23	11.5
3	0	0.0	3	3	1.6	3	10	8.0
4	0	0.0	4	14	2.7	4	4	7.1
5	0	0.0	5	9	4.2	5	12	4.5
6	0	0.0	6	4	14.4	6	7	6.9
5．1	0	0.0	7．1	14	18.3	9．1	20	2.7
2	0	0.0	2	23	31.2	2	2	1.4
3	0	0.1	3	10	35.5	3	3	1.1
4	0	0.0	4	5	27.2	4	1	0.3
5	2	0.9	5	23	19.2	5	2	0.2
6	0	1.1	6	15	16.5	6	10	0.1
						総 計	246	231.5

（２）巡回による調査
①６月27～28日調査（畦畔・雑草地など）

	調査圃場数	すくい取り虫数（20回振り・成幼虫）						
		ﾎｿﾊﾘ	ｼﾗﾎｼ	ﾄｹﾞｼﾗﾎｼ	ｸﾓﾍﾘ	ｱｶｽｼﾞ	ｱｶﾋｹﾞ	合　計
平　均	34	0.24	0	0.12	0.03	8.50	1.94	10.82
採取圃場率(%)		8.8	0	5.9	2.9	61.8	38.2	67.6

②７月12～14日調査（極早生品種が出穂した圃場）

	調査圃場数	すくい取り虫数（20回振り・成幼虫）						
		ﾎｿﾊﾘ	ｼﾗﾎｼ	ﾄｹﾞｼﾗﾎｼ	ｸﾓﾍﾘ	ｱｶｽｼﾞ	ｱｶﾋｹﾞ	合　計
平　均	16	0	0	0.06	0	1.00	0.94	2.75
採取圃場率(%)		0	0	6.3	0	50.0	43.8	68.8

１５）ヒメトビウンカ

（１）予察灯による成虫の誘殺状況
①半旬別誘殺表

地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町	
月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本　年	平　均
４．１	0	0.0	６．１	0	0.0	８．１	0	0.4
2	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0	3	0	0.2
4	0	0.0	4	0	0.0	4	0	0.2
5	0	0.0	5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0	6	0	0.4
５．１	0	0.0	７．１	0	0.2	９．１	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.1	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.1	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0	4	0	0.1
5	0	0.1	5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.3	6	0	0.0
						総計	0	2.1

（２）定点と巡回による調査
①６月27～30日調査

	調査圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	8	0	8
東部山間	6	0	0	0
西部平坦	16	13	0	13
西部山間	0	0	0	0
合　計	46	21	0	21
平　均		0.5	0	0.5
圃場率(%)		26.1	0	26.1
成虫比				100

注）調査方法：50株払い落し（粘着板使用）

②８月３～５日調査

	調査圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	9	1	10
東部山間	6	0	0	0
西部平坦	16	12	1	13
西部山間	2	0	0	0
合　計	48	21	2	23
平　均		0.4	0	0.5
圃場率(%)		20.8	4.2	20.8
成虫比				91.3

注）調査方法：25株払い落し（粘着板使用）

③８月26～31日調査

	調査圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	22	16	0	16
東部山間	0	0	0	0
西部平坦	16	26	0	26
西部山間	2	0	0	0
合　計	40	42	0	42
平　均		1.1	0	1.1
圃場率(%)		52.5	0	52.5
成虫比				100

注）調査方法：25払い落し（粘着板使用）

１６）フタオビコヤガ

（１）定点と巡回による調査

	6月27～30日		8月3～5日		8月26～31日	
	調査圃場数	被害株数	調査圃場数	被害株数	調査圃場数	被害株数
東部平坦	24	0	24	0	22	0
東部山間	6	0	6	0	0	0
西部平坦	16	0	16	0	16	0
西部山間	0	0	2	0	2	0
合計	46	0	48	0	40	0
平均	0		0		0	
圃場率(%)	0		0		0	
被害株率(%)	0		0		0	

注）調査方法：25株見取り調査

（Ⅱ）ムギ

１．ムギの生育状況

１）生育概況

麦の播種は10月末から始まったが、11月に入ると雨の日が続き播種作業が進まず、前年より全体的に遅くなり１2月中旬まで行われた。早い播種のものは出芽が順調であったが１１月中旬のものでは連続した降雨による湿害により発芽不良となった。

11月～１月上旬にかけては気温が高めに推移したことから、生育はかなり早くなり、葉色は濃く、分げつも順調で、茎数が確保された。

また、３月中旬からの温暖の影響により、全体的に平年より５～１０日程度早く推移し、草丈及び穂長は、平年並み。穂数は、平年並み～やや多くなった。

出穂は二条大麦、はだか麦で3月上旬～中旬。小麦で4月中旬となり出穂も平年より早まった。出穂期以降の登熟は平年より高温少雨であったことから３麦とも収穫は順調に進んだが、一部の圃場では霜害の影響を受け登熟不良による収量減を招いたところもありました。

成熟期以降も引き続き好天や適期防除などにより病虫害の発生は少なかった。収穫作業は二条大麦で5月下旬から、小麦とはだか麦で6月に入ってから始まり全麦種とも6月中旬には収穫を終了した。

２）作柄及び検査概況

播種作業の遅れによる茎数の低下が懸念されたが、１２月以降の好天により最終的には稈長及び穂長は平年並み～やや短く、穂数は平年並み～やや少なくなった。収穫量の平年対比は二条大麦で８５％、小麦が９２％、はだか麦は８９％であった

（2016年産水稲・麦類・大豆の作柄概況（農業技術センター技術普及部）より抜粋）

３）生育状況調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

品　種　名	H28年３月18日		３月29日	４月８日
	草　　丈	茎数（100㎝）	草　　丈	草　　丈
サチホゴールデン	58.5 cm	125.0　本	77.6 cm	87.9 cm
農林61号	66.9	65.0	78.8	83.6

注）播種日と出穂期

サチホゴールデン：H27年11月16日、H28年３月22日

農林61号：H27年10月26日、H28年４月２日

２．病害虫に関する調査結果

１）赤かび病、うどんこ病、さび病類、斑葉病、雲形病

（１）発病状況調査

①定点における調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

品　種　名	さび病類			うどんこ病		
	４月８日	４月26日	５月18日	４月８日	４月26日	５月18日
サチホゴールデン	0　％	0　％	0　％	0　％	0　％	0　％
農林61号	0	0	0	0	0	0

注）表中の数字は発病茎率

雲形病、斑葉病、赤かび病の発生はみられなかった。

②巡回による調査

ア．オオムギ(二条)

調査月日	調査場所	調査圃場数	小さび病		うどんこ病		赤かび病		斑葉病	
			発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率
28.3.30	出雲市	40	0　％	0　％	0　％	0　％	－％	－　％	0　％	0　％
4.26	出雲市	40	0	0	0	0	0	0	0	0
5.14	出雲市	40	0	0	0	0	2.2	0.02	0	0

注）黄さび病、雲形病の発生は認められなかった。

イ．オオムギ(六条)

調査月日	調査場所	調査圃場数	小さび病		うどんこ病		赤かび病		雲形病	
			発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率
28.3.30	出雲市	4	0 %	0 %	0 %	0 %	－ %	－ %	0 %	0 %
4.26	出雲市	4	0	0	0	0	0	0	0	0
5.14	出雲市	4	0	0	0	0	0	0	0	0

注）黄さび病、斑葉病の発生は認められなかった。

ウ．コムギ

調査月日	調査場所	調査圃場数	赤さび病		うどんこ病		赤かび病	
			発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率
28.3.30	出雲市	20	0 %	0 %	0 %	0 %	－ %	－ %
3.31	松江市	21	28.6	1.6	0	0	－	－
4.22	松江市	21	52.4	36.0	0	0	0	0
4.26	出雲市	20	0	0	0	0	0	0
5.17	松江市	21	57.1	57.1	0	0	19.0	0.19
5.18	出雲市	20	0	0	0	0	40.0	0.40

注）黄さび病の発生は認められなかった。

（Ⅲ）ダイズ

１．病害虫に関する調査結果

１）アブラムシ類

（１）黄色水盤による有翅虫の有殺状況

①半旬別誘殺数

イチゴのアブラムシ類の項参照。

２）吸実性カメムシ類

（１）ボックストラップによる調査(出雲市芦渡町)

調査月日	アオクサカメムシ	ｲﾁﾓﾝｼﾞカメムシ	ホソヘリカメムシ
7月28日	0	1	6
8月1日	0	2	2
8月5日	0	0	2
8月8日	0	0	4
8月12日	0	2	7
8月16日	0	0	4
8月19日	0	2	2
8月22日	0	0	5
8月30日	0	2	12
9月3日	0	6	4
9月8日	0	2	5
9月12日	0	14	8
9月15日	0	0	9
9月21日	0	2	12
9月23日	0	6	5
9月28日	0	6	20
9月30日	0	2	2
10月3日	1	4	8
10月6日	0	2	2

3）ハスモンヨトウ

（1）フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

キャベツのハスモンヨトウの項に掲載。

（2）被害状況調査

①巡回による調査（斐川地区）

調査月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	1a当り白変か所数
28. 8.30	30	53.3	1.2

Ⅱ）果樹
（Ⅰ）ナシ
１．病害虫に関する調査結果
１）黒斑病、黒星病
（１）発病状況調査（１圃場10新梢の全葉について調査。４月下旬、５月上旬は幼果について１圃場100果実調査）
①定点における調査
地区予察圃場（安来市中津町、二十世紀、慣行散布）調査結果は圃場NO.7に記載。
②巡回による調査（安来市、二十世紀、慣行散布）

ア．2016年４月25日調査

圃場 NO.	調査 葉数	落葉率(%)	調査 生葉数	黒斑病 発病葉率(%)	黒斑病 発病度	黒星病 発病葉率(%)	黒星病 発病度
５	71	0	71	0	0	0	0
７	78	0	78	0	0	0	0
８	85	0	85	0	0	0	0
１０	70	0	70	0	0	0	0
１４	72	0	72	0	0	0	0
１５	68	0	68	0	0	0	0
１６	75	0	75	0	0	0	0
１７	80	0	80	0	0	0	0
平均	74.9	0	74.9	0	0	0	0

圃場 NO.	調査 幼果数	黒星病 発病幼果率(%)
５	100	0
７	100	0
８	100	0
１０	100	0
１４	100	0
１５	100	0
１６	100	0
１７	100	0
平均	100	0

※圃場No．は連番とはせず、過去の調査と比較しやすいように固有番号としている。

イ．５月11日調査

圃場 NO.	調査 葉数	落葉率(%)	調査 生葉数	黒斑病 発病葉率(%)	黒斑病 発病度	黒星病 発病葉率(%)	黒星病 発病度
７	97	0	97	0	0	0	0
８	109	0	109	0	0	0	0
１０	103	0	103	0	0	0	0
１４	104	0	104	0	0	0	0
１５	106	0	106	0	0	0	0
１６	100	0	100	0	0	0	0
１７	109	0	109	0	0	0	0
平均	104.0	0	104.0	0	0	0	0

圃場 NO.	調査 幼果数	黒　星　病 発病幼果率(%)
7	100	0
8	100	2.0
１０	100	0
１４	100	0
１５	100	0
１６	100	1.0
１７	100	0
平均	100.0	0.4

ウ．５月24日調査

圃場 NO.	調査 葉数	落葉率(%)	調　査 生葉数	黒　斑　病 発病葉率(%)	黒　斑　病 発病度	黒　星　病 発病葉率(%)	黒　星　病 発病度
5	133	0	133	0	0	0	0
7	142	0	142	1.4	0.4	0	0
8	141	0	141	0	0	0	0
１０	138	0	138	0	0	0	0
１４	138	0	138	0	0	0	0
１５	141	0	141	0.7	0.2	2.1	0.5
１６	123	0	123	4.9	1.2	0	0
１７	149	0	149	0	0	0	0
平均	138.1	0	138.1	0.9	0.2	0	0.1

エ．６月28日調査

圃場 NO.	調査 葉数	落葉率(%)	調　査 生葉数	黒　斑　病 発病葉率(%)	黒　斑　病 発病度	黒　星　病 発病葉率(%)	黒　星　病 発病度
5	144	0	144	4.9	1.2	2.1	0.5
7	173	0	173	10.4	2.9	0	0
8	178	0	178	21.3	6.6	7.9	2.1
１０	167	0	167	15.0	4.3	1.8	0.5
１４	198	0	198	3.5	0.9	0	0
１５	184	0	184	4.9	1.2	0	0
１７	205	0	205	6.3	1.7	0	0
平均	178.4	0	178.4	9.5	2.7	1.7	0.4

オ．７月28日調査

圃場 NO.	調査 葉数	落葉率(%)	調　査 生葉数	黒　斑　病 発病葉率(%)	黒　斑　病 発病度	黒　星　病 発病葉率(%)	黒　星　病 発病度
5	200	0	188	6.0	1.8	0.5	0.1
7	192	0	188	9.9	3.3	0	0
8	184	0	173	14.4	3.9	6.1	1.5
１０	188	0	177	12.9	3.8	4.3	1.1
１４	189	0	206	2.1	0.5	0	0
１５	201	0	190	5.5	1.4	0	0
１７	212	0	178	3.8	0.9	0	0
平均	195.1	0	194.3	7.8	2.2	1.6	0.4

カ．８月31日調査

圃場 NO.	調査葉数	落葉率(%)	調査生葉数	黒斑病 発病葉率(%)	黒斑病 発病度	黒星病 発病葉率(%)	黒星病 発病度
7	202	1.5	199	11.6	3.8	0	0
8	185	8.1	170	16.5	7.5	2.4	0.6
１０	168	4.2	161	7.5	2.3	5.0	1.2
１４	191	0	191	2.6	1.1	0	0
１５	218	0	218	4.1	1.0	0	0
１７	221	0	221	2.3	0.6	0	0
平均	197.5	4.2	193.3	7.4	2.7	1.2	0.3

２）ナシヒメシンクイ

（１）予察灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 水銀灯（１００W） 本年	水銀灯 平年	フェロモントラップ 本年	フェロモントラップ 平年	地区予察圃場(安来市中津町) フェロモントラップ 本年	フェロモントラップ 平年
４．１	0	0.0	2	0.5	0	0.6
2	0	0.0	1	0.7	0	1.2
3	0	0.0	3	1.9	0	37.3
4	0	0.0	8	4.6	12	19.8
5	0	0.0	0	2.9	10	34.0
6	0	0.0	1	4.5	14	19.3
５．１	0	0.0	0	5.3	21	51.5
2	0	0.0	0	3.6	10	34.6
3	0	0.0	2	1.3	0	23.1
4	0	0.0	0	2.5	0	9.1
5	0	0.0	0	0.5	28	16.3
6	0	0.0	0	1.0	15	8.0
６．１	0	0.0	1	1.8	13	4.5
2	0	0.0	0	6.4	4	11.3
3	0	0.0	0	3.0	0	23.5
4	0	0.0	0	2.1	20	24.4
5	0	0.0	1	1.5	26	44.1
6	0	0.0	0	0.9	0	32.0
７．１	0	0.0	0	0.9	0	0.4
2	0	0.0	0	1.1	24	32.5
3	0	0.0	0	1.3	18	14.7
4	0	0.0	0	5.3	0	49.2
5	0	0.0	0	4.2	0	24.6
6	0	0.0	0	2.3	21	35.8
８．１	0	0.0	2	1.7	9	1.1
2	0	0.0	1	3.8	25	28.8
3	0	0.0	1	2.2	0	15.3
4	0	0.0	2	1.0	19	21.8
5	0	0.0	0	1.3	25	24.5
6	0	0.0	2	0.5	8	14.2
９．１	0	0.0	3	3.2	0	12.1
2	1	0.0	0	1.5	6	16.3
3	0	0.0	2	1.1	0	9.2
4	0	0.0	0	0.2	0	6.2
5	0	0.0	0	0.0	0	8.4
6	0	0.0	0	0.0	0	0.3
１０．１	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合　計	0	0.0	32	76.6	328	710.0

3）ナシオオシンクイガ

（1）予察灯による成虫の誘殺状況

月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 本　年	県予察圃場（出雲市芦渡町） 平　年	月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 本　年	県予察圃場（出雲市芦渡町） 平　年
4. 1	0	0.0	8. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
5. 1	0	0.0	9. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
6. 1	0	0.0	10. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
7. 1	0	0.0	合計	0	0.0
2	0	0.0			
3	0	0.0			
4	0	0.0			
5	0	0.0			
6	0	0.0			

4）モモシンクイガ

（1）フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表（モモシンクイガ）

月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 本年	県予察圃場（出雲市芦渡町） 平年	地区予察圃場（安来市中津町） 本年	地区予察圃場（安来市中津町） 平年	月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 本年	県予察圃場（出雲市芦渡町） 平年	地区予察圃場（安来市中津町） 本年	地区予察圃場（安来市中津町） 平年
5．1	0	0.0	0	0.0	8．1	0	0.0	40	5.8
2	0	0.0	0	0.0	2	0	0.0	0	16.8
3	0	0.0	0	0.0	3	0	0.0	31	26.9
4	0	0.0	0	0.0	4	0	0.0	18	11.0
5	0	0.0	0	0.0	5	0	0.0	25	21.7
6	0	0.0	0	0.0	6	0	0.0	0	12.3
6．1	0	0.0	0	4.6	9．1	0	0.0	10	1.8
2	0	0.0	16	18.9	2	0	0.0	0	3.0
3	0	0.0	28	23.2	3	0	0.0	0	1.3
4	0	0.0	20	28.4	4	0	0.0	0	1.2
5	0	0.0	15	34.3	5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	19.7	6	0	0.0	0	0.0
7．1	0	0.0	23	9.9	１０．1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	33	20.6	2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	15	17.2	3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	6	28.2	4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	11.5	5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	8	17.6	6	0	0.0	0	0.0
				合　計		0	0.0	288	336.8

5）チャノコカクモンハマキ
（1）成虫の誘殺状況
①半旬別誘殺表

月 半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 水銀灯(100W) 本年	水銀灯(100W) 平年	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ 本年	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ 平年	月 半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 水銀灯(100W) 本年	水銀灯(100W) 平年	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ 本年	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ 平年
4. 1	0	0.0	0	0.2	8. 1	0	0.0	0	16.3
2	0	0.0	0	1.2	2	0	0.1	0	11.7
3	0	0.0	0	2.6	3	0	0.3	0	5.2
4	0	0.0	4	3.2	4	0	0.4	0	2.9
5	0	0.7	2	4.8	5	0	0.3	0	2.6
6	0	0.0	17	5.8	6	1	0.9	0	2.0
5. 1	2	0.5	2	12.2	9. 1	2	0.0	0	4.2
2	0	0.4	0	12.4	2	0	1.1	5	9.7
3	0	0.6	0	5.7	3	0	0.7	1	20.0
4	0	0.6	1	5.8	4	0	0.7	0	8.4
5	2	0.7	3	3.4	5	0	0.4	0	3.7
6	1	0.2	0	2.1	6	0	0.0	0	2.2
6. 1	0	0.1	1	0.9	10. 1	0	0.2	0	2.7
2	0	0.7	2	1.9	2	0	0.0	0	3.8
3	1	0.5	1	1.8	3	0	0.1	0	11.9
4	0	0.7	5	6.2	4	0	0.3	0	3.8
5	1	0.7	2	5.0	5	0	0.0	0	2.2
6	0	0.3	3	7.1	6	0	0.0	0	4.1
7. 1	0	0.5	0	8.0	合　計	12	17.7	52	221.3
2	2	1.1	2	2.6					
3	0	0.8	0	2.9					
4	0	0.4	0	3.1					
5	0	2.2	0	2.5					
6	0	0.5	1	2.6					

6）チャハマキ
（1）成虫の誘殺状況
①半旬別誘殺表

月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 水銀灯(100W) 本年	水銀灯(100W) 平年	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ 本年	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ 平年	月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 水銀灯(100W) 本年	水銀灯(100W) 平年	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ 本年	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ 平年
4. 1	0	0.0	0	0.0	8. 1	0	0.5	0	5.7
2	0	0.0	0	0.5	2	0	0.6	0	1.4
3	0	0.1	0	1.1	3	0	0.7	0	1.5
4	0	0.1	7	3.1	4	0	0.6	0	0.3
5	0	0.0	3	2.4	5	0	0.6	0	1.0
6	0	0.0	0	1.1	6	2	0.2	0	0.9
5. 1	0	0.2	1	2.0	9. 1	0	0.2	0	2.0
2	0	0.5	10	2.4	2	0	0.4	1	3.1
3	2	0.3	6	4.0	3	1	0.5	0	0.7
4	0	0.6	0	1.1	4	0	0.3	0	0.7
5	0	0.5	0	1.6	5	0	0.3	0	0.5
6	0	0.4	0	0.4	6	0	0.1	0	0.8
6. 1	0	1.0	0	0.8	10. 1	0	0.2	0	0.5
2	0	1.2	3	0.6	2	0	0.0	0	2.7
3	1	0.8	5	0.8	3	0	0.0	0	1.9
4	2	0.6	0	0.4	4	0	0.0	0	1.1
5	2	1.3	3	1.0	5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.1	0	2.0	6	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.3	0	1.5	合　計	15	14.9	38	63.3
2	0	0.4	2	1.4					
3	3	0.3	0	2.5					
4	0	0.2	0	2.7					
5	0	0.4	0	2.2					
6	2	0.0	1	2.9					

7）ハダニ類、カイガラムシ類

（１）越冬バンドトラップによる越冬密度調査

調査場所	カンザワハダニ		クワコナカイガラムシ	
	本年	平年	本年	平年
中津町地区圃	0.0	0.1	0.0	0.0
〃　　2	0.0	0.2	0.0	0.0
〃　　3	0.0	0.4	0.0	0.0
〃　　4	0.0	0.6	0.0	0.0
島田町　1	0.0	3.4	0.0	0.0
〃　　2	0.0	1.9	0.0	0.0
〃　　3	0.0	0.0	0.0	0.0
〃　　4	0.0	3.6	0.0	0.1
平　均	0.0	1.0	0.0	0.01

注）１．トラップは幅20cmのクラフト紙を太枝に巻き付けた。
　　２．１圃３個設置。　トラップ当り虫数。

（２）発生状況調査

①巡回による調査（特定圃場）

調査月日	4/27	5/24		6/28		7/28		8/28	
圃 場 No.	花叢率	寄生葉率	寄生虫数	寄生葉率	寄生虫数	寄生葉率	寄生虫数	寄生葉率	寄生虫数
	%	%		%		%		%	%
地区予察圃 1	2.0	2.0	2.5	34.0	42.5	94.0	562.5	2.0	2.5
2	0.0	2.0	2.5	10.0	12.5	12.2	15.0	2.0	2.5
3	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.0	27.5	8.0	10.0
4	0.0	0.0	0.0	18.0	50.0	76.0	155.0	6.0	7.5
島　田　1	0.0	0.0	0.0	6.0	7.5	64.0	232.5	6.0	7.5
2	2.0	0.0	0.0	4.0	5.0	2.0	2.5	0.0	0.0
3	0.0	2.0	2.5	0.0	0.0	4.0	5.0	12.0	15.0
4	6.0	3.9	5.0	0.0	0.0	4.0	5.0	14.0	17.5
平　均	2.3	1.2	1.6	9.0	14.7	34.8	125.6	6.3	7.8

注）１．50花叢・50葉調査
　　２．寄生雌成虫数は寄生程度別葉数から算出
　　寄生程度
　　Ａ：１～５　頭／葉　　虫数＝2.5Ａ＋7.5Ｂ＋15Ｃ＋25Ｄ
　　Ｂ：６～10
　　Ｃ：11～20
　　Ｄ：21～
　　Ｅ：０

8）アブラムシ類

（１）発生状況調査

①巡回による調査（特定圃場）

調査月日	4/27		5/24		6/28	
圃場No.	寄生梢率	寄生度	寄生梢率	寄生度	寄生梢率	寄生度
地区予察圃場 1	2.0　%	0.5	8.0　%	0.5	14.0　%	7.0
2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	3.5
3	0.0	0.0	2.0	0.5	2.0	0.5
4	8.0	2.0	2.0	0.5	40.0	24.0
島　　田　1	0.0	0.0	2.0	0.5	6.0	1.5
2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	2.0	0.5	0.0	0.5	4.0	2.0
平　　均	1.5	0.4	1.8	0.3	8.8	4.8

注）1. 圃場当り50梢調査。

2. 寄生度＝ $\dfrac{４Ａ＋３Ｂ＋２Ｃ＋Ｄ}{４×Ｎ（調査新梢数）}$ ×１００

Ａ：先端４葉全てに寄生
Ｂ：〃３葉に寄生
Ｃ：〃２葉　〃
Ｄ：〃１葉　〃
Ｅ：寄生なし

（Ⅱ）カキ

１．病害虫に関する調査結果

１）炭疽病

（１）発病状況調査

（６～８月に１圃場１樹50新梢、７～10月に１圃場１樹50果実について調査）

①定点における調査

地区予察圃場（出雲市東福町、富有、慣行散布）調査結果は圃場NO.１に記載

②巡回による調査（出雲市、慣行散布）

２）うどんこ病、円星落葉病、角斑落葉病、灰色かび病、果実黒すじ病

（１）発病状況調査（１圃場１樹10新梢の全葉について調査。灰色かび病、果実黒すじ病については７～10月に１圃場１樹50果実について調査）

①定点における調査

地区予察圃場（出雲市東福町、富有、慣行散布）調査結果は圃場NO.１に記載

②巡回による調査（出雲市、慣行散布）

ア．2016年４月22日　　※圃場No.は連番とはせず、過去の調査と比較しやすいように固有番号としている。

調査園No.	調査葉数	落葉率	灰色かび病 発病葉率	備考(品種)
1	81	0 %	0 %	富　有
6	59	0	0	西　条
8	66	0	0	西　条
10	69	0	0	富　有
11	79	0	2.5	富　有
12	83	0	0	富　有
13	86	0	0	富　有
14	65	0	0	富　有
15	67	0	0	西　条
平　均	72.8	0	0.3	

イ．５月26日

調査園No.	調査葉数	落葉率	うどんこ病 発病葉率	うどんこ病 発病度	灰色かび病 発病葉率
1	71	0 %	0 %	0	2.8%
6	74	0	0	0	5.4
8	80	0	0	0	10.5
10	91	0	0	0	0
11	90	0	0	0	0
12	106	0	0	0	3.8
13	88	0	0	0	0
14	81	0	0	0	0
平　均	85.1	0	0	0	2.8

ウ．６月24日

調査園No.	調査葉数	落葉率	炭疽病 発病枝率	うどんこ病 発病葉率	うどんこ病 発病度	灰色かび病 発病葉率
1	78	1.3%	0 %	0 %	0	3.9%
6	93	5.4	0	0	0	10.2
8	97	15.5	0	0	0	23.2
10	89	0	0	0	0	0
11	79	0	0	0	0	6.3
12	101	0	2.0	0	0	3.0
13	78	0	0	0	0	0
14	80	0	0	0	0	0
平　均	86.9	2.8	0.3	0	0	5.8

エ．７月27日

調査園No.	調査葉数	落葉率	炭疽病	うどんこ病		灰色かび病
			発病枝率	発病葉率	発病度	発病葉率
1	91	0 %	0 %	0 %	0	1.1%
6	87	0	0	1.2	0.3	0
8	76	0	0	0	0	1.3
10	92	0	0	0	0	1.1
11	96	0	0	0	0	0
12	102	0	0	0	0	2.0
13	70	0	0	0	0	0
14	90	0	0	0	0	0
平　均	81.7	0	0	0.1	0.1	0.7

調査園No.	調査果数	炭疽病	灰色かび病	果実黒すじ病
		発病果率	発病果率	発病果率
1	50	0 %	2.0%	6.0%
6	50	0	8.0	2.0
8	50	0	6.0	4.0
10	50	0	0	0
11	50	0	8.0	0
12	50	0	6.0	0
13	50	0	0	0
14	50	0	0	0
平均	50.0	0	3.8	1.5

オ．８月24日

調査園No.	調査葉数	落葉率	炭疽病	うどんこ病	
			発病枝率	発病葉率	発病度
1	85	0 %	0 %	14.1%	5.6
6	92	2.2	0	43.3	14.7
8	84	0	0	1.2	0.3
10	79	0	0	32.9	11.1
11	101	0	0	0	0
12	92	0	0	4.4	1.1
13	77	0	0	0	0
14	96	0	0	14.6	3.7
平　均	88.3	0.3	0	13.8	4.6

調査園No.	調査果数	炭疽病	灰色かび病	果実黒すじ病
		発病果率	発病果率	発病果率
1	50	0 %	6.0%	4.0%
6	50	0	4.0	0
8	50	0	16.0	0
10	50	2.0	2.0	0
11	50	0	8.0	0
12	50	0	4.0	0
13	50	0	0	0
14	50	0	0	0
平均	50.0	0.3	5.0	0.5

カ．９月26日

調査園No.	調査葉数	落葉率	円星落葉病 発病葉率	円星落葉病 発病度	うどんこ病 発病葉率	うどんこ病 発病度	角斑落葉病 発病葉率	角斑落葉病 発病度
1	88	3.4%	0 %	0	47.1%	28.8	0 %	0
6	90	0	0	0	53.3	25.6	0	0
8	81	0	0	0	4.9	1.5	0	0
10	99	1.0	0	0	86.7	58.4	0	0
11	86	0	0	0	0	0	0	0
12	102	0	0	0	9.8	2.9	0	0
13	78	0	0	0	0	0	0	0
14	85	0	0	0	43.5	24.1	0	0
平均	88.6	0.6	0	0	30.7	17.7	0	0

調査園No.	調査果数	炭疽病 発病果率	灰色かび病 発病果率	果実黒すじ病 発病果率
1	50	0 %	2.0%	0 %
6	50	0	4.0	0
8	50	0	8.0	12.0
10	50	0	0	0
11	50	0	2.0	2.0
12	50	0	0	0
13	50	0	0	2.0
14	50	0	0	2.0
平均	50.0	0	2.0	2.3

キ．10月25日

調査園No.	調査葉数	落葉率	円星落葉病 発病葉率	円星落葉病 発病度	うどんこ病 発病葉率	うどんこ病 発病度	角斑落葉病 発病葉率	角斑落葉病 発病度
1	71	4.2%	0 %	0	67.6%	33.8	0 %	0
6	90	2.2	0	0	80.7	33.8	0	0
8	84	9.5	48.7	14.8	23.7	7.2	0	0
10	89	1.1	0	0	100	80.1	0	0
11	85	0	60.0	27.6	0	0	2.4	0.6
12	91	0	29.7	8.0	33.0	11.0	0	0
13	81	0	0	0	1.2	0.3	2.2	0.6
14	84	0	0	0	63.1	33.9	0	0
平均	84.4	1.8	17.3	6.3	46.2	25.0	0.6	0.1

調査園No.	調査果数	炭疽病 発病果率	灰色かび病 発病果率	果実黒すじ病 発病果率
1	50	6.0%	2.0%	0 %
6	収穫終了			
8	収穫終了			
10	50	0	0	0
11	50	0	2.0	0
12	50	2.0	0	0
13	50	2.0	0	0
14	50	0	0	0
平均	50.0	2.0	1.0	0

3）カキミガ

（１）予察灯による成虫の誘殺状況

県予察圃場（出雲市芦渡町）での誘殺は認めなかった。

（２）被害の発生消長調査

平田市の一般圃場５園において５月下旬～８月下旬に５回各園100果について調査を行ったが被害は認めなかった。

4）カメムシ類

（１）予察灯による成虫の誘殺状況（水銀灯100W）

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月・半旬	ﾁｬﾊﾞﾈｱｵｶﾒﾑｼ		ｸｻｷﾞｶﾒﾑｼ		ﾂﾔｱｵｶﾒﾑｼ		ｱｵｸｻｶﾒﾑｼ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5. 1	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.3	0	0.6	0	0.0	0	0.0
3	0	11.0	0	0.2	0	0.0	0	0.1
4	0	2.9	0	0.4	0	1.8	0	0.0
5	0	4.9	0	0.4	0	3.5	0	0.0
6	0	5.3	3	0.6	0	3.7	0	0.0
6. 1	1	1.7	0	0.1	0	0.7	0	0.0
2	6	1.7	0	0.7	0	1.2	0	0.0
3	4	7.5	0	0.7	0	6.8	0	0.0
4	6	9.1	0	0.8	0	7.6	0	0.0
5	6	6.8	0	0.6	11	5.4	0	0.2
6	0	33.7	0	5.3	0	14.9	0	0.1
7. 1	10	70.8	7	6.3	3	10.1	0	0.2
2	6	51.9	1	12.1	1	16.9	3	0.0
3	18	75.8	2	20.0	1	10.3	1	0.4
4	21	116.9	29	28.8	0	8.2	1	0.1
5	4	84.8	9	28.1	2	10.9	2	2.8
6	12	146.9	9	53.0	3	11.2	7	0.7
8. 1	9	80.7	35	49.1	5	9.6	2	0.5
2	47	99.9	22	44.5	31	16.2	3	0.4
3	23	104.8	90	39.9	16	24.4	0	0.3
4	61	106.9	98	11.3	35	15.1	1	0.0
5	203	60.2	24	19.3	74	8.4	2	0.0
6	35	34.1	160	9.9	8	3.3	0	0.0
9. 1	51	32.7	25	2.7	26	2.3	1	0.0
2	11	15.9	19	0.9	6	4.0	0	0.0
3	2	49.6	5	3.4	0	5.8	0	0.0
4	0	15.7	0	0.8	0	3.3	0	0.0
5	0	15.2	0	1.4	0	8.3	0	0.0
6	0	2.8	0	0.1	0	0.4	0	0.0
10. 1	0	2.0	0	0.0	0	2.2	0	0.0
2	0	7.2	0	1.0	0	5.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.5	0	1.2	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.0
5	0	0.0	0	2.2	0	0.2	0	0.0
6	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0
合計	523	1260.1	533	345.9	216	223.2	23	5.8

5）チャノコカクモンハマキ
（1）予察灯・フェロモントラップによる成虫の誘殺状況
ナシのチャノコカクモンハマキの項に掲載

6）チャハマキ
（1）予察灯・フェロモントラップによる成虫の誘殺状況
ナシのチャハマキの項に掲載

7）カキクダアザミウマ
（1）粘着トラップによる誘殺状況
○県予察圃場（出雲市芦渡町）
①越冬成虫の誘殺状況

月　日	誘殺数	月　日	誘殺数	月　日	誘殺数
4.11	0	4.21	0	5. 1	0
12	0	22	0	2	0
13	0	23	0	3	0
14	0	24	0	4	0
15	0	25	0	5	0
16	0	26	0	6	0
17	0	27	0	7	0
18	0	28	0	8	0
19	0	29	0	9	0
20	0	30	0	10	0
				合　計	0

②第1世代成虫の誘殺状況

月．半旬	本年	平年	月.半旬	本年	平年	月.半旬	本年	平年
6. 1	0	0.7	7. 1	2	1.0	8. 1	0	0.0
2	2	0.6	2	0	0.3	2	0	0.0
3	1	1.1	3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.6	4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.3	5	0	0.0	5	0	0.0
6	3	0.9	6	0	0.0	6	0	0.0
						合　計	8	5.6

8）フジコナカイガラムシ
（1）フェロモントラップによる誘殺状況（一般圃場：出雲市東福町）

月．半旬	誘殺数	月.半旬	誘殺数	月.半旬	誘殺数
3. 1	－	6. 1	1	9. 1	34
2	－	2	0	2	129
3	－	3	0	3	126
4	－	4	0	4	41
5	－	5	0	5	34
6	－	6	0	6	2
4. 1	－	7. 1	0	10. 1	8
2	－	2	10	2	16
3	－	3	17	3	0
4	－	4	24	4	0
5	0	5	5	5	0
6	0	6	0	6	0
5. 1	2	8. 1	0	11. 1	0
2	0	2	5	2	0
3	11	3	7	3	0
4	23	4	0	4	0
5	16	5	24	5	0
6	0	6	157	6	－

（２）果実の被害状況
○一般圃場（平田市）

調査月日	調査数	カメムシ 被害果数	カメムシ 被害果率(%)	カキクダアザミウマ 被害＊梢数	カキクダアザミウマ 被害梢率(%)	コナカイガラムシ 被害果数	コナカイガラムシ 被害果率(%)	ハマキムシ 被害果数	ハマキムシ 被害果率(%)
4.26	－	－	－	0	0	0	0	－	－
5.11	－	－	－	0	0.2	0	0	0	0
5.25	500	0	0.0	0	0	0	0	0	0
6.27	500	0	0.0	0	0	1	0.2	2	0.4
7.27	500	0	0.0	0	0	4	0.8	10	2.0
8.27	500	0	0.0	0	0	20	4.0	18	3.6
9.25	500	2	0.4	0	0	27	5.4	28	5.6
10.28	400	4	1.0	0	0	31	7.8	39	9.8

注）＊：各園100新梢、計500新梢調査

（３）定点における調査
①収穫果実の被害調査
○一般圃場（平田市）

調査月日	調査果数	カメムシ 被害果数	カメムシ 被害果率(%)	カキクダアザミウマ 被害果数	カキクダアザミウマ 被害果率(%)	コナカイガラムシ 被害果数	コナカイガラムシ 被害果率(%)	ハマキムシ 被害果数	ハマキムシ 被害果率(%)
11.20	623	31	5.0	0	0.0	47	7.5	63	10.1

（Ⅲ）クリ

１．病害虫に関する調査結果

１）モモノゴマダラノメイガ

（１）予察灯による成虫の誘殺状況
○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月．半旬	本　年	平　年	月．半旬	本　年	平　年
５．１	0	0.0	８．１	0	0.2
２	0	0.0	２	0	0.3
３	0	0.0	３	0	0.0
４	0	0.0	４	0	0.2
５	0	0.0	５	0	0.3
６	0	0.0	６	0	0.0
６．１	0	0.1	９．１	0	0.1
２	0	0.6	２	0	0.0
３	0	0.6	３	0	0.0
４	0	0.0	４	0	0.0
５	1	0.0	５	0	0.0
６	0	0.1	６	0	0.1
７．１	0	0.1	１０．１	0	0.0
２	1	0.2	２	0	0.0
３	0	0.0	３	0	0.0
４	0	0.0	４	0	0.0
５	0	0.0	５	0	0.0
６	0	0.6	６	0	0.0
			合　計	2	3.5

２）クスサン

（１）予察灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月．半旬	本 年	平 年	月．半旬	本 年	平 年	月．半旬	本 年	平 年
８．１	0	0.0	９．１	0	0.2	１０．１	23	9.1
2	0	0.0	2	0	0.9	2	20	6.5
3	0	0.0	3	0	1.5	3	6	1.7
4	0	0.0	4	0	0.9	4	0	0.1
5	0	0.2	5	0	3.3	5	0	0.0
6	0	0.0	6	12	2.8	6	0	0.0
						合　計	61	27.2

Ⅲ）野菜
（Ⅰ）キャベツ
１．病害虫に関する調査結果
１）黒腐病
（１）発病状況調査
①巡回による調査
○調査場所：斐川町

調査月日	作型	調査圃場数	黒　腐　病	
			発生圃場率(%)	発病株率(%)
’16.10. 4	夏秋	7	28.6	0.9
	冬	15	0	0
11. 4	夏秋	4	0	0
	冬	15	0	0

注）調査株数：50株/圃場。夏期の高温により移植遅れが目立つ。

２）菌核病
（１）発病状況調査
①巡回による調査
○調査場所：斐川町

調査月日	作型	調査圃場数	菌　核　病	
			発生圃場率 (%)	発病株率(%)
’16.10. 4	夏秋	7	14.3	0.6
	冬	15	0	0
11. 4	夏秋	4	0	0
	冬	15	0	0

注）調査株数：50株/圃場。

３）モンシロチョウ
（１）発生状況調査
①巡回による調査
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
16.8. 31	12	41.7	5.8	0.6
10. 3	7	0.0	0.0	0.0

注）調査株数：10株/圃場(8.31)、10株/圃場(10.3)。

４）コナガ
（１）発生状況調査
モンシロチョウと同時に調査を行った。
①巡回による調査
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
16.8. 31	12	75.0	21.7	4.1
10. 3	7	33.3	5.8	0.7

注）調査株数：10株/圃場(8.31)、10株/圃場(10.3)。

5）ヨトウガ
（1）発生状況調査
モンシロチョウと同時に調査を行った。
①巡回による調査
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	幼虫寄生株率(%)
16.8. 31	12	16.7	2.5
10. 3	7	0.0	0.0

注）調査株数：10株/圃場(8.31)、10株/圃場(10.3)。

6）ウワバ類
（1）発生状況調査
モンシロチョウと同時に調査を行った。
①巡回による調査
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率 (%)	寄生株率 (%)	10株当り虫数			
				卵	幼虫	蛹	計
16.8. 31	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10. 3	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注）調査株数：10株/圃場(8.31)、10株/圃場(10.3)。

7）アブラムシ類
（1）黄色水盤による有翅虫の有殺状況
①半旬別誘殺数
イチゴのアブラムシ類の項参照。
（2）発生状況調査
モンシロチョウと同時に調査を行った。
②巡回による調査
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
16.8. 31	12	66.7	10.0
10. 3	7	100.0	40.0

注）調査株数：10株/圃場(8.31)、10株/圃場(10.3)。

8）ハスモンヨトウ
（1）フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況
①半旬別誘殺数
○設置場所：出雲市芦渡町

月．半旬	本 年	*平 年	月．半旬	本 年	*平 年	月．半旬	本 年	*平 年
4． 1	0	0.8	6． 3	13	12.2	8． 5	27	48.7
2	0	0.1	4	20	23.8	6	281	54.2
3	2	0.4	5	133	32.5	9． 1	304	70.5
4	0	0.8	6	183	41.2	2	105	96.2
5	0	0.4	7． 1	65	85.6	3	62	87.6
6	1	0.2	2	41	68.0	4	36	89.7
5． 1	0	0.4	3	66	47.7	5	34	54.4
2	6	1.8	4	69	40.9	6	69	39.9
3	9	2.8	5	41	25.6	１０． 1	89	56.3
4	14	5.4	6	7	27.1	2	167	35.4
5	40	6.3	8． 1	40	19.3	3	110	31.4
6	12	4.2	2	31	29.8	4	82	30.7
6． 1	4	5.7	3	25	45.9	5	28	38.4
2	6	7.1	4	52	45.4	6	68	35.7
						総 計	2342	1350.5

注）農技センター屋上設置。＊：平成18年～平成27年の平均値

○設置場所：益田市飯田町

月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年
５．１	5	1.4	７．１	77	71.5	９．１	184	115.1
２	7	2.11	２	47	53.5	２	268	131.1
３	17	3.7	３	67	26.9	３	101	90.0
４	31	8.6	４	36	38.2	４	257	155.5
５	34	23.3	５	7	35.2	５	98	128.0
６	18	27.4	６	10	34.4	６	262	195.7
６．１	5	21.9	８．１	50	18.1	１０．１	230	165.5
２	5	10.9	２	85	35.3	２	415	110.1
３	13	16.7	３	70	62.4	３	208	89.0
４	20	19.8	４	57	72.8	４	78	89.3
５	255	27.8	５	60	111.4	５	101	117.6
６	267	49.2	６	625	127.1	６		252.0
注）＊：平成18年～平成27年の平均値						総　計	4070	2538.5

（２）発生状況調査

モンシロチョウと同時に調査を行った。

①巡回による調査

ア．夏秋キャベツ

○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
16.8. 31	12	16.7	1.7
10. 3	7	25.0	4.2

注）調査株数：10株/圃場(8.31)、10株/圃場(10.3)。

9）シロイチモジヨトウ

（１）フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町

月．半旬	本 年	*平 年	月．半旬	本 年	*平 年	月．半旬	本 年	*平 年
４．１	0	0.0	６．３	0	0.3	８．５	0	2.0
２	0	0.0	４	0	0.1	６	24	2.9
３	0	0.0	５	0	0.5	９．１	16	3.1
４	0	0.0	６	0	0.1	２	10	1.3
５	0	0.0	７．１	0	0.6	３	1	1.6
６	0	0.0	２	0	0.1	４	2	1.6
５．１	0	0.0	３	0	0.1	５	9	1.0
２	0	0.0	４	0	0.6	６	8	0.6
３	0	0.0	５	0	0.4	１０．１	2	2.0
４	0	0.0	６	0	0.8	２	1	0.7
５	0	0.8	８．１	0	0.7	３	0	0.9
６	0	0.4	２	0	1.9	４	1	0.0
６．１	0	0.0	３	0	1.7	５	0	0.0
２	0	0.1	４	0	1.1	６	0	0.3
注）農技センター屋上設置。＊：平成18年～平成27年の平均値						総　計	74	28.3

○設置場所：益田市飯田町

月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年
５．１	0	0.0	７．１	3	2.7	９．１	109	5.8
２	0	0.0	２	1	1.0	２	0	7.3
３	0	0.0	３	3	2.2	３	1	8.9
４	0	0.3	４	9	1.8	４	0	6.2
５	0	0.7	５	0	1.8	５	1	6.5
６	0	0.6	６	0	2.4	６	17	12.9
６．１	0	0.5	８．１	3	7.3	１０．１	18	10.6
２	0	0.4	２	7	4.4	２	12	2.5
３	0	0.8	３	5	6.5	３	4	1.4
４	1	0.7	４	3	9.8	４	5	1.2
５	2	1.8	５	5	13.7	５	1	1.1
６	8	2.2	６	13	14.0	６	1	1.2
注）＊：平成18年～平成27年の平均値						総　計	232	141.2

（２）発生状況調査
モンシロチョウと同時に調査を行った。
①巡回による調査
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区
2016年8月31日、10月6日に調査を行ったが確認されなかった。

１０）オオタバコガ

（１）フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況
①半旬別誘殺数
○設置場所：出雲市芦渡町

月．半旬	本 年	*平 年	月．半旬	本 年	*平 年	月．半旬	本 年	*平 年
４．１	0	0.0	６．３	0	0.0	８．５	0	0.1
２	0	0.0	４	0	0.4	６	1	0.1
３	0	0.0	５	0	0.0	９．１	0	0.0
４	0	0.0	６	0	0.0	２	0	1.1
５	0	0.0	７．１	0	0.0	３	0	0.0
６	0	0.0	２	0	0.1	４	0	1.1
５．１	0	0.0	３	0	0.1	５	0	0.6
２	0	0.0	４	0	0.1	６	0	0.1
３	0	0.0	５	0	0.1	１０．１	0	0.0
４	0	0.0	６	0	0.0	２	0	1.4
５	0	0.0	８．１	0	0.1	３	0	0.9
６	0	0.0	２	0	0.0	４	0	0.5
６．１	0	0.1	３	0	0.0	５	0	1.0
２	0	0.0	４	0	0.0	６	0	1.4
注）農技センター屋上設置。＊：平成18年～平成27年の平均値						総　計	1	9.3

○設置場所：益田市飯田町

月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年
５．１	0	0.2	７．１	0	0.1	９．１	0	0.2
２	0	0.2	２	0	0.3	２	0	0.0
３	0	0.4	３	0	0.3	３	1	0.0
４	0	0.6	４	0	0.2	４	0	0.1
５	0	0.0	５	0	0.1	５	1	0.7
６	0	0.1	６	0	0.4	６	1	0.5
６．１	0	0.1	８．１	0	0.0	１０．１	0	0.7
２	0	0.0	２	0	0.1	２	0	0.6
３	0	0.0	３	0	0.3	３	1	0.4
４	0	0.0	４	0	0.0	４	1	1.6
５	0	0.1	５	0	0.1	５	0	0.6
６	0	0.6	６	1	0.2	６	0	3.3
注）＊：平成18年～平成27年の平均値						総　計	6	13.1

（２）発生状況調査
モンシロチョウと同時に調査を行った。
①巡回による調査
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区
2016年8月31日、10月6日に調査を行ったが確認されなかった。

１1）キスジノミハムシ

（１）発生状況調査
モンシロチョウと同時に調査を行った。
①巡回による調査
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り成虫数
16．8．31	12	33.3	10.8	1.1
10．3	7	42.9	21.4	2.1

注）調査株数：10株/圃場。

（Ⅱ）タマネギ

１．病害虫に関する調査結果

１）べと病

（１）発生状況調査

①巡回による調査

調査月日	調査場所	調査圃場数	発生圃場率(%)	調査株数	発病株率(%)
’16. 3.28	斐川町	30	53.3	753,900	0.243
4.22	斐川町	30	73.3	9,000	14.57
5.19	斐川町	23	87.0	6,900	39.01

２）白色疫病、ボトリチス属菌による葉枯症、腐敗病・軟腐病、さび病

（１）発生状況調査

①巡回による調査

調査月日	調査場所	調査圃場数	白色疫病		ﾎﾞﾄﾘﾁｽ属菌による葉枯症		腐敗病･軟腐病	
			発生圃場率(%)	発病株率(%)	発生圃場率(%)	発病株率(%)	発生圃場率(%)	発病株率(%)
’16. 3.28	斐川町	30	10.0	0.4	0.0	0.0	16.7	0.4
4.22	斐川町	30	6.7	0.3	0.0	0.0	36.7	2.0
5.19	斐川町	23	0.0	0.0	8.7	0.2	52.2	6.1

注）調査株数：300株/圃場。さび病の発生はみられなかった。

（Ⅲ）イチゴ

１．病害虫に関する調査結果

１）灰色かび病

（１）発病状況調査

①巡回による調査

調査年月日	調査場所	調査圃場数	発生圃場率(%)	発病株率(%)	調査葉数	発病葉率(%)	調査花梗数	発病花梗率(%)	調査果実数	発病果率(%)
’16.3.30	安来市	8	100	13.0	3770	0.6	3370	0.4	2465	0.0
4.25	安来市	8	50	5.1	3130	0.3	2180	0.2	1305	0.0
11.29	安来市	10	20	4.4	2150	0.5	2675	0.0	2665	0.0
’17.2. 6	安来市	10	70	12.4	2770	2.3	2460	0.0	2395	0.0
2.27	安来市	10	40	9.2	3000	1.4	2930	0.1	2020	0.2

注）１圃場当り25株調査

２）うどんこ病

（１）発病状況調査

①巡回による調査

調査年月日	調査場所	調査圃場数	発生圃場率(%)	発病株率(%)	調査葉数	発病葉率(%)	調査花梗数	発病花梗率(%)	調査果実数	発病果率(%)
’16.3.30	安来市	8	12.5	0.5	3770	0.1	3000	0.0	2465	0.1
4.19	安来市	8	37.5	2.3	3130	0.7	2180	0.0	1305	0.3
6.29	安来市	10	70	12.0	840	13.1				
8. 3	安来市	10	20	3.2	800	1.3				
8.30	安来市	10	0	0.0	850	0				
9.26	安来市	12	8.3	1.3	1130	0.3				
11. 2	安来市	10	30	20	1610	9.1				
11.29	安来市	10	40	7.6	2150	0.3	2675	0.1	2665	0.7
’17.2. 6	安来市	10	0	0.0	2770	0.0	2460	0.0	2395	0.0
2.27	安来市	10	0	0.0	3000	0.0	2930	0.0	2020	0.0

注）１圃場当り25株調査

3）炭疽病

（1）発病状況調査

①巡回による調査

調査年月日	調査場所	調査圃場数	発生圃場率(%)	調査株数	発病株率(%)
’16.6.29	安来市	10	0	5000	0
8. 3	安来市	10	30	5000	0.5
8.30	安来市	10	40	5000	1.2
9.26	安来市	10	10	5000	0.2
11. 2	安来市	10	50	5000	0.9

4）アブラムシ類

（1）黄色水盤による有翅虫の誘殺状況

①半旬別誘殺数

月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年
４．１	8	0.0	７．１	1	92.4	１０．１	0	51.9
2	3	1.4	2	0	67.7	2	0	42.4
3	2	1.6	3	4	49.5	3	1	27.4
4	7	4.4	4	2	21.7	4	4	14.9
5	7	6.5	5	7	12.4	5	3	39.9
6	0	13.4	6	11	17.3	6	9	60.9
５．１	4	24.0	８．１	7	19.3			
2	6	23.4	2	4	16.3	総　計	487	1573.9
3	19	24.7	3	0	13.1			
4	15	34.7	4	9	16.5			
5	46	45.6	5	4	16.9			
6	51	48.9	6	8	22.0			
６．１	28	49.4	９．１	11	20.4			
2	47	59.5	2	16	22.1			
3	46	84.8	3	12	24.7			
4	55	104.6	4	7	82.1			
5	12	74.9	5	3	51.3			
6	4	127.4	6	4	41.6			

注）１黄色水盤：径20㎝、深さ18㎝、ライシメータ上に設置。
　　２調　　査：平成28年4月から10月に1～6日おきに飛び込み有翅虫数を調査した。
　　３　＊　　：平成18年から平成27年までの平均値。

（2）発生状況調査

①巡回による調査

○安来・出雲地区

調査年月日	調査圃場数	ワタアブラムシ		モモアカアブラムシ	
		発生圃場率(%)	寄生株率(%)	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
16. 3.24	9	22.2	33.3	0.0	0.0
16. 4.26	9	55.5	13.3	0.0	0.0

注）調査株数：10株(1株3複葉)/圃場。

5）ハダニ類

（1）発生状況調査

アブラムシ類と同時に調査を行った。

①巡回による調査

○安来・出雲地区

調査年月日	調査圃場数	カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率(%)	寄生葉率(%)	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
16. 3.24	9	0.0	0.0	88.9	41.1
16. 4.26	9	0.0	0.0	77.8	44.1

注）調査株数：10株(1株3複葉)/圃場。

6）コナジラミ類

（1）発生状況調査

アブラムシ類と同時に調査を行った。

①巡回による調査

○安来・出雲地区

調査年月日	調査圃場数	コナジラミ類	
		発生圃場率(%)	寄生株率(%)
2016.3.24	9	88.9	55.6
4.26	9	77.8	36.7

注）調査株数：10株(1株3複葉)/圃場(3.24調査)，10株(1株3複葉)/圃場(4.26調査)。

Ⅳ）病害虫発生程度別面積 2016（H.28）

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積（ha）					防除面積(ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
普通期水稲	17,300	苗立枯病	0	0	2	28	30	13,300	13,300	
		苗いもち	0	1	2	45	48	0	0	
		葉いもち	5	20	200	1,800	2,025	12,000	13,000	
		穂いもち	1	4	40	1,200	1,245	8,700	10,500	
		紋枯病	5	25	300	5,500	5,830	6,000	7,500	
		白葉枯病	0	0	0	5	5	0	0	
		ばか苗病	0	1	1	15	17	13,200	13,200	
		もみ枯細菌病	0	0	0	10	10	100	100	
		もみ枯細菌病（種子消毒）					－	-13,200	-13,200	
		ごま葉枯病	2	18	200	4,000	4,220	-5,000	-5,000	
		黄化萎縮病	0	0	0	5	5	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	10	10	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	－	0	0	
		稲こうじ病	0	3	12	250	265	500	500	
		ニカメイガⅠ	0	0	0	3,460	3,460	-11,680	-11,680	
		ニカメイガⅡ	0	0	0	1,090	1,090	-10,000	-10,000	
		セジロウンカ	0	0	0	16,780	16,780	-10,000	-10,000	
		トビイロウンカ	0	0	0	3,570	3,570	10,000	10,000	
		ヒメトビウンカ	0	0	0	9,950	9,950	-11,680	-11,680	
		ツマグロヨコバイ	0	0	0	9,950	9,950	-10,000	-10,000	
		イネミギワバエ	0	0	0	1,000	1,000	-11,680	-11,680	
		イネドロオイムシ	0	0	0	60	60	-11,680	-11,680	
		イネゾウムシ	0	0	0	600	600	-11,680	-11,680	
		イネクロカメムシ	0	0	0	150	150	130	130	
		斑点米カメムシ類	0	0	0	11,700	11,700	10,100	10,100	
		イチモンジセセリ	0	0	0	4,150	4,150	0	0	
		フタオビコヤガ	0	0	0	1,000	1,000	0	0	
		イネヨトウ	0	0	0	50	50	0	0	
		アワヨトウ	0	0	0	0	－	0	0	
		コブノメイガ	0	0	0	3,800	3,800	0	0	
		イネミズゾウムシ	0	0	0	5,200	5,200	11,680	11,680	
麦	636	さび病類	0	0	0	1	1	0	0	
		うどんこ病	0	0	0	0	－	-500	-500	
		赤かび病	0	0	0	2	2	550	1,000	
		黒穂病類					－			
		黒節病	0	0	0	10	10	0	0	
		大麦縞萎縮病					－			
		斑葉病					－			
大豆	873	アブラムシ類	0	0	25	55	80	300	350	
		ハスモンヨトウ	0	5	220	400	625	400	600	
		吸実性カメムシ類	1	10	120	390	521	400	500	

農作物名	作付面積(ha)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					防除面積(ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
なし	77	黒斑病	1	3	5	29	38	40	520	
		黒星病	0	0	4	26	30	77	539	
		ナシヒメシンクイ	0	0	4	14	18	77	154	
		ナシオオシンクイガ	0	0	0	0	0	0	0	
		モモシンクイガ	0	0	0	8	8	77	173	
		ハマキムシ類	0	0	15	23	38	77	154	
		ハダニ類	0	10	30	30	70	77	231	
		カメムシ類	0	0	0	30	30	77	231	
		カイガラムシ類	0	0	0	10	10	77	77	
		アブラムシ類	0	0	15	20	35	77	77	
		ニセナシサビダニ	10	15	20	30	75	77	231	
かき	337	炭そ病	0	2	8	20	30	300	1,800	
		うどんこ病	20	23	50	93	186	300	900	
		落葉病類	3	5	15	40	63	300	900	
		カキノヘタムシガ(カキミガ)	0	0	20	80	100	351	702	
		カイガラムシ類	5	40	65	150	260	351	959	
		カメムシ類	0	0	20	85	105	351	702	
		ハマキムシ類	0	10	30	30	70	351	702	
		チャノキイロアザミウマ	0	0	5	10	15	351	702	
		カキクダアザミウマ	0	0	0	50	50	351	702	
夏秋キャベツ	54	黒腐病	0	0	3	15	18	27	54	
		菌核病	0	0	2	10	12	27	54	
		アブラムシ類	0	0	1	5	6	30	50	
		モンシロチョウ	0	0	5	9	14	50	200	
		コナガ	0	1	6	50	57	50	250	
		ハスモンヨトウ	0	5	15	25	45	50	200	
		ヨトウガ	0	0	0	0	0	0	0	
		オオタバコガ	0	0	0	0	0	0	0	
		シロイチモジヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	
冬キャベツ	121	黒腐病	0	0	3	12	15	40	60	
		菌核病	0	0	4	13	17	50	100	
		モンシロチョウ	0	2	7	25	34	120	240	
		コナガ	1	4	15	50	70	120	240	
		ハスモンヨトウ	1	5	19	65	90	120	240	
タマネギ	110	白色疫病	0	0	3	8	11	80	320	
		べと病	5	15	30	45	95	110	770	
		ボトリチス属菌による葉枯れ	0	0	0	30	30			
		ネギアザミウマ	0	0	0	20	20	20	20	
イチゴ	18	灰色かび病	0	0	0	8	8	18	54	
		うどんこ病	0	0	0	8	8	18	54	
		炭疽病	0	0	0	4	4	18	54	
		アブラムシ類	0	1	5	8	14	15	30	
		アザミウマ類	0	0	2	6	8	10	20	
		ハダニ類	1	4	4	6	15	15	30	

Ⅴ）病害虫発生経過の概要及び発生原因の解析(2016・H28年)

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
イネ	いもち病	葉いもち平年並、穂いもち平年並	葉いもち平年並、穂いもちやや少ない	６月上旬の置き苗でのいもち病の発生圃場率は2.0%（平年0.4%）と多かった。葉いもちの初発生は６月15日とほぼ平年並みであった。７月下旬の巡回調査（70圃場）における発生圃場率は、一部地域で発病程度が高く20.0%（平年12.3%）、発病株率が9.0%（平年4.6%）であったが、県下全般の発生量ははぼ平年並みであった。穂いもちは、初発生が８月２日とほぼ平年並みに認められた。８月下旬の巡回調査（70圃場）における発生圃場率は11.4%（平年9.6%）、発病穂率は0.6%（平年0.3%）と、調査地域の一部で発生程度の高い圃場が見られたが、県下全般の発生量はやや少なかった。	前年にいもち病の発生がやや多かったことから、育苗期のいもち病の感染が多かった。アメダス観測15地点におけるBLASTAMによる６月の感染好適日の出現回数は46回（平年28.4回）と多く、感染苗を移植した圃場等では発病程度が高くなったものと考えられる。７月に入ると感染好適日の出現回数は16回（平年32.2回）と少なく、葉いもちの発病が抑制された。また、８月も好天が続き感染好適日の出現回数は６回（平年18.6回）と少なく穂いもちの感染も抑制されたものと考えられる。	常習発生地では育苗箱施薬が行われた。また、発生に応じ薬剤散布が行われた。
	紋枯病	平年並	やや少ない	初発生は平年並みの６月15日に認められた。初期の病勢進展は緩慢で、「コシヒカリ」等では出穂後の上位進展も緩慢であった。出穂時期の遅い「きぬむすめ」などの発生圃場では出穂後の上位進展が活発となった。全般の発生量はやや少なかった。	近年、発生が多く伝染源量が多いと考えられるが、７月～８月には降雨頻度が低く感染が抑制された。９月入ると降雨頻度が高く、「きぬむすめ」等の発生圃場では、上位進展を助長したものと考えられる。	育苗箱施薬や発生に応じて出穂期までに薬剤散布が行われた。
	縞葉枯病	平年並	やや少ない	初発生は６月下旬に認められ、その後、ゆうれい症状を呈する発病株が一部圃場で認められた。７月下旬の巡回調査（70圃場）における発生圃場率は0%、また、再生稲における発生圃場率（111圃場）も0%とやや少ない発生であった。	ヒメトビウンカの越冬世代～第１世代の発生量は多かったが、近年の保毒虫率は低く、本病の発生量はやや少なかったものと考えられる。	これまでに、縞葉枯病が多発生した地域では、箱施薬剤等による媒介虫のヒメトビウンカに対する防除が行われた。
	セジロウンカ	平年並	平年並	予察灯での初飛来は平年並みであり、その後の飛来量も平年並みに経過した。現地圃場の成幼虫の発生は7月中旬に50株当り虫数が58.5頭（平年130.6頭）、発生圃場率が97.5%（平年80.5%）と平年に比べてやや多かった。8月上旬に12.2頭（平年34.4頭）、発生圃場率が79.2%（平年67.3%）となり、全般の発生量は平年並みであった。	飛来時期は平年並みであり、その後の飛来量も平年並みで経過したことから、全般の発生量は平年並みとなったもの考えられる。	大部分の圃場では育苗箱施薬が行われている。また、出穂時に穂いもち・ウンカ類の同時防除が行われた。
	トビイロウンカ	遅い	やや少ない	予察灯での初飛来は確認されなかった。圃場での成幼虫の発生は8月上旬は50株当り虫数が0頭（平年0.19頭）、発生圃場率が0%(平年6.7%）と平年並みであった。8月下旬に50株当り虫数が0.1頭(平年4.2頭)、発生圃場率が2.5%(平年33.7%）と平年と比べてやや少なく、全般の発生量は平年と比べやや少なかった。	飛来時期は遅く、その後の飛来量も少なかったことから、全般の発生量はやや少なくなったもの考えられる。	大部分の圃場では育苗箱施薬が行われている。また、出穂時に穂いもち・ウンカ類の同時防除が行われた。
	斑点米カメムシ類	平年並	平年並	６月下旬の圃場周辺雑草地でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類合計で発生量は10.8頭/20回振り(平年6.9頭)で発生量は平年に比べてやや多かった。７月下旬の極早生品種出穂時の調査では、発生量は2.0頭/20回振り（平年6.3頭）で平年に比べやや少なく、圃場率68.8%（平年74.3%）は平年並みであった。全般の発生量は平年並みで推移した。主な発生種はアカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ､ホソハリカメムシであった。	本田内の発生量はやや少なく、7～8月の気温が高く推移したことから、全般の発生量は平年並みとなったもの考えられる。	発生に応じて穂揃い・乳熟期～糊熟期に薬剤散布が行われた。カメムシ防除を狙った長期残効型箱剤の施用面積も拡大している。
	イネミズゾウムシ	平年並	やや少ない	前年の発生はやや少なく、その後の発生量もやや少なかった。	－	大部分の圃場では育苗箱施薬が行われている。

	コブノメイガ	平年並	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	－	大部分の圃場では育苗箱施薬が行われている。
	ツマグロヨコバイ	平年並	平年並	６月下旬の調査では発生圃場率が21.7％（平年39.5％）、50株当り虫数が2.6頭（平年2.7頭）と平年並みであった。その後も発生量は平年並みであった。なお、予察灯での初飛来は平年比べてやや遅く、その後の飛来量は平年に比べて少なく経過した。	－	大部分の圃場では育苗箱施薬が行われている。
	ニカメイガ	第一世代やや早い 第二世代平年並	第一世代平年並 第二世代平年並	予察灯への飛来は４月第５半旬に認められ、平年に比べやや早い。第一世代全般の誘殺数は平年に比べてやや多かった。６月下旬の巡回調査では、被害株率は0.2％（平年0.2％）で発生量は平年並みであった。予察灯での第二世代の全般の誘殺数は平年に比べてやや多く、７月下旬の圃場での被害株率は平年並みであった。	－	大部分の圃場では育苗箱施薬が行われている。
	ヒメトビウンカ	平年並	やや多い	４月中旬の耕起前水田内の越冬世代成幼虫すくい取り調査では発生圃場率が26.3％（平年18.0％）、捕獲数が1.5頭（平年0.77頭）と平年と比べてやや多かった。６月下旬の調査では発生圃場率が26.1％（平年20.8％）、50株当り虫数が1.0頭（平年0.6頭）と平年と比べやや多かった。		大部分の圃場では育苗箱施薬が行われている。
	フタオビコヤガ	平年並	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	－	大部分の圃場では育苗箱施薬が行われている。
ムギ	さび病	－	少ない	コムギでは赤さび病の発生が一部地域で確認された。 オオムギ小さび病は発生を確認していない。	近年発生が少ないことから、伝染源量が少ないものと考えられる。	本病を対象とした防除は特に行われなかった。
	赤かび病	－	コムギ少ない オオムギ少ない	５月中旬における発生量は発生圃場率が14.89％、発病穂率は0.24％で、平年に比べてオオムギ・コムギともに少なかった。	コムギの出穂期前後に降雨が少なかった。	ムギの種類に応じて出穂期以降、薬剤散布が実施された。
	うどんこ病	－	少ない	オオムギ、コムギとも巡回調査では発生を確認できなかった。	近年発生が少ないことから、伝染源量が少ないものと考えられる。	他の病害との同時防除が行われた。
ダイズ	ハスモンヨトウ	早い	やや多い	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数は9月下旬までやや多かった。圃場での幼虫の発生は平年より早く、8月上旬から見られた。1a当りの白変葉の数は一部の圃場では非常に多く見られたが全般ではやや多い程度であった。発生量は8月末から増加し9月末まで平年に比べやや多かった。	成虫の飛来が早かったため，被害は早くから見られた．成虫の飛来量が平年に比べやや多かったため，幼虫の発生量は平年よりもやや多かったと思われる．	発生に応じて薬剤散布が行われた。
ナシ	黒斑病	平年並	少ない	発生量は6月下旬までは平年並みで推移したが、その後病勢は進展せず、全般の発生量は少なかった。	７～８月の降水量が少なく推移したためと考えられる。	袋がけ時期を中心に薬剤散布がよく行われた。以後、収穫期まで薬剤散布が行われた。
	黒星病	平年並	平年並	初発は平年並みの5月上旬に確認した。全般の発生量は平年並みであった。	－	開花期から袋かけ期を中心に薬剤防除が行われた。
	ナシヒメシンクイ	平年並	平年並	フェロモントラップでの越冬世代、第１世代雄成虫の誘殺時期は平年並み。誘殺数はすべての世代で平年並みとなった。果実の被害は全般には平年並みであった。	３月中下旬以降気温が高かったが、越冬世代成虫の発生時期は平年並みとなった。越冬量は平年並みであった。５月以降も8月下旬から9月上旬を除き気温は高く推移したが、定期的に薬剤防除が行われ発生量は平年並みとなったと思われる。また、本県ではほとんどが有袋栽培のため果実の被害は平年並みとなったと考えられる。	小袋掛け前に他害虫との同時防除が行われた。

	モモシンクイガ	平年並	平年並	フェロモントラップでの越冬世代、第１世代雄成虫の誘殺時期は平年並みであった。誘殺数、果実被害は全般に平年並みであった。	前年の発生は平年並みで、越冬世代成虫の発生量も平年並みと考えられる。春先から気温が高く推移したが、発生時期は平年並みとなった。また、本県ではほとんどが有袋栽培のため果実の被害は平年並みとなったと考えられる。	ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類との同時防除が行われた。
	ハマキムシ類	平年並	平年並	フェロモントラップでのチャハマキ、チャノコカクモンハマキ越冬世代の発生時期は、平年並みであった。チャハマキ、チャノコカクモンハマキの発生量は平年並み、幼虫による被害も平年並みとなった。	３月は気温が高かったものの、越冬世代の発生時期は平年並みとなった。その後、気温は高く発生量は平年並みからやや多く推移した。8月下旬から9月上旬を除き気温は高く推移したが6月以降定期的に薬剤防除が行われ、全体の発生量は平年並みとなったと考えられる。	他害虫との同時防除が行われた。
	ハダニ類	平年並	平年並	４月下旬の発生量は花叢への寄生率は平年並みとなったが、その後、６月から７月に発生量は増加したが、その後８月以降はやや少なくなった。全般の発生量は平年並みであった。	カンザワハダニの越冬量はやや少なく、４月下旬にクワオオハダニの花叢への寄生がみられたが、平年並みとなった。その後、８月下旬から9月上旬を除き気温が高く、発生量が一時増加したが、定期的に薬剤防除が行われた。8月下旬から9月上旬にかけ降水量も多く発生はやや少なくなった。このため、全体の発生量は平年並みで推移したと考えられる。	５月下旬～６月、７月上旬、８月上中旬を中心に薬剤散布が行われた。
	クワコナカイガラムシ	－	やや少ない	全般の発生量はやや少なかった。	－	防虫果袋が使用された。
	アブラムシ類	平年並	平年並	越冬成虫の発生時期は平年並みとなった。５月上旬の新梢への寄生程度は平年並みとなった。全体を通して発生時期、発生量は平年並みで推移した。	４月から気温が高く推移したが、発生時期は平年並みとなった。その後も8月下旬から9月上旬を除き、気温は高く推移したが、定期的に薬剤による防除が行われ、発生量は平年並みに推移したものと考えられる。	５～６月に薬剤散布が行われた。
カキ	炭疽病	平年並	やや多い	一部多発園も見られたが、全般の発生量は平年並みであった。９月下旬まで平年並みで推移したが、10月下旬には平年と比べてやや多くなった。	９月の降雨が多く推移し、発病を助長されたと考えられる。	梅雨時期と８月下旬～９月を中心に薬剤散布が行われた。
	うどんこ病	平年並	多い	発生量は８月下旬までは平年並みで推移したが、９月下旬には平年と比べて多くなった。	９月の降雨が多く推移したことが秋期発病を助長したと考えられる。	８月下旬～９月を中心に薬剤散布が行われた。
	円星落葉病	平年並	平年並	一部多発園も見られたが、全般の発生量は平年並みであった。	近年、発生量が少ない傾向が続いているため、越冬菌量が少なかったことと、薬剤防除が徹底されたためと考えられる。	５月～７月に薬剤散布が行われた。
	カキミガ	平年並	平年並	果実での発生量、被害とも平年並みであった。	防除効果の高い薬剤が適期に散布されたためと考えられる。	各世代発生期に薬剤散布が行われた。
	カメムシ類	平年並	やや少ない	フェロモントラップでは４月26日に、予察灯では５月25日から誘殺された。その後、発生量はやや少なく推移した。9月に被害が増加したが、全体の被害はやや少なくなった。	昨年はヒノキ毬果が平年並みでカメムシの越冬量は平年並みと考えられた。本年はヒノキの花粉飛散量から毬果はやや多いと考えられ、圃場への飛来時期はやや遅く、飛来量はやや少なくなったと考えられる。９月下旬まで気温が高く９月中旬以降に被害果が増加した。８月上旬から９月上旬まで定期的に防除を行ったため被害はやや少なかった。	

	カキクダアザミウマ	平年並	平年並	５月12日に被害捲葉の発生を認めた。発生量は平年並みであった。第１世代成虫は６月第５半旬から粘着トラップに誘殺され、誘殺数は平年並みであった。果実被害は７月中旬からみられたが、被害量は平年並みであった。	越冬成虫の飛来量が平年並みであったこと、成虫飛来時期の薬剤散布と被害捲葉の除去などの防除対策により、果実被害の発生量は平年並みとなったと考えられる。	越冬成虫飛来期の薬剤散布と捲葉の切除が行われた。
夏秋キャベツ	黒腐病	やや早い	やや多い	巡回調査での発生量は生育期間全般を通じてやや多かった。	結球期に降水量が多く、食葉性害虫等により葉の傷害が目立ち、感染に好適な状況を呈する圃場で発生がみとめられた。しかし、全般には近年発生量がやや少ないことから、発生は限定的なものと考えられる。	薬剤による防除が行われた。
	菌核病	やや早い	やや多い	全般の発生量は平年に比べてやや多かった。	結球期に降水量が多かったため、平年よりも発生量が多くなったと考えられる。	薬剤による防除が行われた。
	コナガ	－	やや多い	幼虫の発生量は全般に平年に比べてやや多かった。	－	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫との同時防除が行われた。
	ハスモンヨトウ	早い	やや多い	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数は9月下旬まではやや多かった。圃場では平年より早い8月末から卵塊が見られ、8月末の発生量はやや多かった。その後は平年並みの発生量となったが，全般の発生量はやや多かった。	成虫の飛来が早かったため，被害は早くから見られた．成虫の飛来量が平年よりもやや多かったため，幼虫の発生量はやや多くなったものと思われる．	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫との同時防除が行われた。
冬キャベツ	黒腐病	平年並	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	－	薬剤による防除が行われた。
	菌核病	平年並	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	－	薬剤による防除が行われた。
	コナガ	－	多い	幼虫の発生量は全般に平年に比べ多かった。	－	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫との同時防除が行われた。
	ハスモンヨトウ	早い	やや多い	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数は全般にやや多かった。圃場での幼虫の発生は平年より早い8月末から見られ、この時期の発生量はやや多かった。９月下旬の寄生株率は4.2%（平年4.6%）と平年並みとなった。全般の発生量はやや多かった。	成虫の飛来が早かったため，被害は早くから見られた．成虫の飛来量がやや多かったため，幼虫の発生量はやや多いになったものと思われる．	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫との同時防除が行われた。
タマネギ	白色疫病	平年並	やや少ない	３月には県内各地で発生がみられたが、発病程度の低い圃場が多く、全般の発生量は平年に比べて少なかった。４月以降は、例年どおり気温の上昇に伴い病勢は鈍化し、４月下旬にはほぼ終息した。	－	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	べと病	やや早い	多い	３月下旬における越年罹病株の発生量は24.3株/1万株（平年4.3株/１万株）と過去10年で最も多く、発生圃場率は53.3%（平年25.0%）と過去10年で２番目に多かった。このことから３月30日付けで注意報を発表した。その後、二次感染株の発生が県内各地で認められ、５月下旬における発生圃場率は87.0%、発病株率は39.0%と過去10年で最も多い発生であった。	昨年11月から2月の降水量が多く、気温が高い傾向であったことが、越年罹病株の発生を助長したと考えられる。４月から５月の降水量が多く、気温が高く推移したため二次感染により発生量が多くなったと思われる。	３月30日にべと病の注意報を発令し注意を促した。越年罹病株の抜き取りや発生に応じた薬剤散布が行われた。

イチゴ	灰色かび病	平年並	やや少ない	県内各地で発生が認められ、全般の発生量は平年よりもやや少ない発生となった。	－	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	うどんこ病	平年並	平年並	県内各地で発生が認められたが、全般の発生量は平年並みであった。	－	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	炭疽病	－	－	県内各地で発生が認められた、一部多発圃場が認められた。	－	薬剤散布が行われた。
	アブラムシ類	－	やや多い	促成、半促成栽培における全般の発生量は平年に比べてやや多かった。	前年秋季のアブラムシ類有翅虫の飛来数はやや少なかったが、ハウス内の気温がやや高く経過し増殖に好適であったため平年に比べやや多くなったと思われる.	定植時とその後は発生に応じて薬剤散布が行われた。

Ⅵ）情報の提供、諸報告に関する事項

１．情報の提供方法及び提供先

１）印刷物・郵送（＊印は注意報、特殊報のみ）

○国関係

＊農林水産省 消費･安全局植物防疫課、＊同中国四国農政局 消費･安全部 安全管理課植物防疫係、気象庁松江地方気象台。

○国立研究開発法人

農業･食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター、同果樹茶業研究部門、同ブドウ･カキ研究拠点、同西日本農業研究センター。

○他県関係

＊鳥取、＊岡山、＊広島、＊山口、＊徳島、＊香川、＊愛媛、＊高知、各県担当課。

○県内関係

島根県立松江農林高等学校、同出雲農林高等学校、同邇摩高等学校、同矢上高等学校、同益田翔陽高等学校、同図書館。

○県内団体

島根県農業協同組合、農業振興協会。

○報道機関

朝日、山陰中央、サンケイ、島根日日、中国、毎日、読売 各新聞社出雲支局（出雲市役所記者室）、ＮＨＫ松江放送局、同出雲通信部、山陰放送、同ラジオ総局、山陰中央テレビ放送局、同出雲通信部、日本海テレビ、同出雲通信部。

２）ＦＡＸ

○県内関係

島根県中山間地域研究センター。

○報道機関

日本農業新聞松江支局、同中国四国支所、出雲ケーブルビジョン、石見ケーブルテレビ。

３）メール

島根県農林水産部 農業経営課、同農産園芸課、東部農林振興センター、西部農林振興センター、各農業普及部（松江、浜田、安来、雲南、出雲、県央、大田、益田）、隠岐支庁農林局 農業振興グループ、同島前地域振興グループ、農業技術センター、島根県立農林大学校、各市町村、全国農業協同組合連合会中四国営農資材事業所、各農業共済組合、島根県農薬卸商協会、各病害虫防除員、ひとまろビジョン。

４）ホームページ

発生予察情報（発生予報、特殊報、注意報、臨時情報）。

２．発表状況

（１）発生予察情報の発表状況

種　類	発表回数	発表部数	対　象　病　害　虫
発生予報	８回	２００部	○イネ 葉いもち２回、穂いもち３回、紋枯病４回、白葉枯病３回、縞葉枯病２回、萎縮病１回、黄化萎縮病１回、ヒメトビウンカ４回、ニカメイチュウ５回、ツマグロヨコバイ４回、イネミズゾウムシ３回、セジロウンカ３回、トビイロウンカ４回、コブノメイガ３回、斑点米カメムシ類４回。 ○ムギ うどんこ病２回、赤かび病２回、さび病類２回。 ○ダイズ ハスモンヨトウ１回。 ○ナシ 黒斑病７回、黒星病４回、シンクイムシ類６回、ハマキムシ類３回、ハダニ類７回、アブラムシ類２回、カメムシ類２回。 ○カキ 円星落葉病１回、うどんこ病３回、灰色かび病１回、カキミガ３回、チャノキイロアザミウマ１回、カメムシ類３回、カキクダアザミウマ２回。

種　類	発表回数	発表部数	対　　象　　病　　害　　虫
			○果樹全般 カメムシ類２回。 ○キャベツ 黒腐病１回、菌核病１回。 ○アブラナ科野菜 アブラムシ類１回、コナガ１回、アオムシ１回、ハスモンヨトウ２回。 ○タマネギ ボトリチス属菌による葉枯れ３回、べと病３回、腐敗病・軟腐病３回、白色疫病１回。 ○イチゴ 灰色かび病２回、うどんこ病１回、アブラムシ類２回、ハダニ類２回。
特 殊 報	１ 回	２００部	○シクラメン：えそ斑紋病　１回
技術資料	５ 回	２００部	○水稲：QoI剤耐性イネいもち病　１回 ○イチゴ：ハダニ類　１回 ○イチゴ：アブラムシ類　１回 ○水稲：稲こうじ病　１回 ○ダイズ及びアブラナ科野菜：ハスモンヨトウ　１回

３．発表内容

１）特殊報

（１）第１号（平成２８年９月１２日）　　シクラメン：えそ斑紋病

２）技術資料

（１）第１号（平成２８年４月　５日）　　水稲：QoI剤耐性イネいもち病
（２）第２号（平成２８年４月　５日）　　イチゴ：ハダニ類
（３）第３号（平成２８年５月　２日）　　イチゴ：アブラムシ類
（４）第４号（平成２８年５月２７日）　　水稲：稲こうじ病
（５）第５号（平成２８年９月　５日）　　ダイズ及びアブラナ科野菜：ハスモンヨトウ

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所［担当：永島・奈良井］
ＴＥＬ：０８５３－２２－６７７２
ＦＡＸ：０８５３－２４－３３４２

平成28年度　病害虫発生予察情報　特殊報第１号（新病害発生情報）

平成28年９月12日
島根県病害虫防除所

シクラメンえそ斑紋病の本県での初発生が確認されたので特殊報を発表します。

【概況】
平成28年８月、県東部の施設栽培のシクラメンにおいて、葉にえそ輪紋、黄化症状を示す株が確認された（図1、２）。症状からウイルスによる病害の疑いがあったため、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構中央農業研究センターに診断を依頼したところ、インパチエンスえそ斑点ウイルスによるシクラメンえそ斑紋病であることが判明した。
国内における本ウイルスによる病害は、平成11年に静岡県のバーベナで、シクラメンでは平成12年に秋田県で報告された。このほか、全国27都道県でトルコギキョウ、インパチェンス、ベゴニア等での被害が報告されている。中国地方では、本県以外の４県全てで発生が報告されている。

１　病害虫名　シクラメンえそ斑紋病
２　病 原 名　インパチエンスえそ斑点ウイルス
（*Impatiens necrotic spot virus*：INSV）
３　作 物 名　シクラメン
４　発生場所　県東部
５　発生生態
１）病徴
葉ではえそ輪紋、斑紋を生じ、後に黄化、枯死する。花ではえそ斑紋を生じる。これらの病徴は夏の高温期では症状が見えにくくなる。なお、シクラメンに感染するトマト黄化えそウイルスも症状が酷似するため、病徴だけでの判別は困難である。

図１　葉のえそ輪紋

図２　葉のえそ輪紋、黄化

図３　ミカンキイロアザミウマ
（媒介虫）

２）伝染経路
ミカンキイロアザミウマ（図３）、ヒラズハナアザミウマにより伝搬されるが、特にミカンキイロアザミウマの媒介能力が高い。これらのアザミウマは幼虫の時に本ウイルスを獲得し、成虫がウイルスを伝搬する。ウイルスを保毒後、死亡するまで伝搬能力を保持するが、経卵伝染はしない。
本病は種子伝染や土壌伝染は報告されていない。また汁液によって伝染は可能であるが、管理作業により接触伝染する可能性は低いとされている。

３）宿主植物
本ウイルスの宿主範囲は極めて広く、花き類を中心に感染の報告がされている（表１）。

表１．INSVの感染が確認されている主な植物（病害虫情報No.62「横浜植物防疫所発行」より抜粋）

科	植物名	科	植物名
アルストロメリア科	アルストロメリア	シュウカイドウ科	ベゴニア
キク科	キク、ダリア、ﾏﾘｰｺﾞｰﾙﾄﾞ	ツリフネソウ科	インパチェンス
キョウチクトウ科	ニチニチソウ	ナス科	トマト、トウガラシ、ペチュニア
キンポウゲ科	ラナンキュラス	フウロソウ科	ゼラニウム
ゴマノハグサ科	キンギョソウ	ユキノシタ科	アジサイ
サクラソウ科	シクラメン、プリムラ	リンドウ科	トルコギキョウ
シソ科	サルビア、コリウス		

４）媒介虫（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ）
これらのアザミウマは多くの植物に寄生できる。また、花粉を摂食することにより産卵数が増加する。

６　防除対策

１）発病株は伝染源となるため、見つけ次第株ごと抜き取り、ビニール袋で密閉して施設外へ持ち出し、適切に処分する。
２）本ウイルスの媒介虫（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ）に対して薬剤防除を行う。その際は、同一系統(表２の注２参照)の農薬の連用を避ける。また、青色粘着トラップを設置するとアザミウマ類の発生状況が把握できる。
３）施設の開口部に防虫ネット(目合い0.6mm以下のネットやタイベック織り込みネットが望ましい)を設置し、施設内へのアザミウマ類の侵入を抑制する。
４）施設内外の不必要な花き類や雑草は、ウイルスの感染源やアザミウマ類の繁殖場所となるので、除去し適切に処分する。

表２．アザミウマ類に登録のある主な薬剤（平成28年９月現在）

農薬名[注1)]	使用時期	希釈倍率・使用量	使用回数	使用方法	系統[注2)] (IRACｺｰﾄﾞ)
シクラメン					
トクチオン乳剤	－	1000倍	5回以内	散布	1B
エビセクト水和剤	発生初期	1000倍	5回以内	散布	14
パダンSG水溶剤	発生初期	1500倍	5回以内	散布	14
花き類･観葉植物					
オンコル粒剤５	生育期	6kg/10a	3回以内	株元散布	1A
スミチオン乳剤	－	1000倍	6回以内	散布	1B
オルトラン水和剤	発生初期	1000～1500倍	5回以内	散布	1B
オルトラン粒剤	生育期	3-6kg/10a		株元散布	1B
モスピラン顆粒水溶剤	発生初期	2000倍	5回以内	散布	4A
アクタラ顆粒水溶剤	発生初期	1000倍	6回以内	散布	4A
ディアナSC	発生初期	2500～5000倍	2回以内	散布	5
アファーム乳剤	発生初期	2000倍	5回以内	散布	6
エイビット,アグリメック	発生初期	500倍	5回以内	散布	6
カウンター乳剤	発生初期	2000倍	5回以内	散布	15
ハチハチフロアブル	発生初期	1000倍	4回以内	散布	21A

注1：農薬によっては薬害の懸念があるので、各農薬のラベルに記入されている注意事項を厳守する。
注2：同じIRACｺｰﾄﾞは農薬の系統が同一であることを示す。

７　その他

疑わしい症状が発生している場合は、島根県病害虫防除所(農業技術センター病虫科：0853-22-6772)に連絡する。

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所［担当：藤原・奈良井］
ＴＥＬ：０８５３－２２－６７７２
ＦＡＸ：０８５３－２４－３３４２

平成28年度　病害虫発生予察情報　技術資料第１号

平成28年４月５日
島根県病害虫防除所

QoI剤耐性イネいもち病菌の発生状況について

イネいもち病の防除薬剤であるストロビルリン系殺菌剤(以下、QoI剤）の耐性菌の発生状況について、平成17年以降、県内各地からいもち病の罹病標本を採取し検定を実施しています。平成27年の県内の発生状況と対策は下記のとおりです。

記

１．QoI剤耐性菌の発生状況

１）平成17年～平成23年
耐性菌の発生を認めていない。

２）平成24年
穂いもちを73ほ場から採取し、単胞子分離した73菌株（１ほ場１菌株）を検定した。県西部の１地点３ほ場（4.1%）で耐性菌の発生を確認した（表１）。

３）平成25年
葉いもちまたは穂いもちを112ほ場から採取し、単胞子分離した112菌株（1ほ場1菌株）を検定した。県西部の13ほ場（11.6%）で耐性菌の発生を確認した（表１）。

４）平成26年
穂いもちを126ほ場から採取した。単胞子分離した126菌株（1ほ場1菌株）を検定した結果、県東部の1ほ場と西部の12ほ場の計13ほ場（10.3%）で耐性菌の発生を確認した（表１）。

５）平成27年
穂いもちを140ほ場から採取した。単胞子分離した140菌株（1ほ場1菌株）を検定した結果、県東部の1ほ場と西部の19ほ場の計20ほ場（14.3%）で耐性菌の発生が確認した（表１）。

表１　QoI剤耐性菌の発生状況

調査年	調査ほ場数	耐性菌を確認したほ場数
平成24年	73	3（ 4.1%）
平成25年	112	13（11.6%）
平成26年	126	13（10.3%）
平成27年	**140**	**20（14.3%）**

２．防除対策

１）引き続きQoI剤の育苗箱処理剤は使用しない。
２）QoI剤の本田散布剤は、他系統の育苗箱処理剤との体系防除で使用する。
ただし、既発生地域の使用と未発生地域での多発生時の使用は避ける。
３）引き続き採種圃場およびその周辺圃場ではQoI剤を使用しない。
４）耕種的な防除対策（種子更新、塩水選、種子消毒の実施等）を徹底する。

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所［担当：奈良井］
ＴＥＬ：０８５３－２２－６７７２
ＦＡＸ：０８５３－２４－３３４２

平成２８年度　病害虫発生予察情報　技術資料第２号

平成28年４月５日
島根県病害虫防除所

イチゴにおけるハダニ類の発生状況について

現在、イチゴのハダニ類の発生がほ場毎に大きく異なっており、発生量の多いほ場とほとんど発生が確認出来ないほ場が混在しています。現地では発生状況の把握に努めるとともに、薬剤散布など適切な防除対策をお願いします。

記

１．現在の発生状況

１）平成28年３月下旬の巡回調査における発生はほ場毎に大きく異なった。発生量は発生ほ場率88.9％（平年45.6％）、寄生株率41.1％（平年15.5％）と多かったが、ほとんど発生がないほ場も認められた。

２）１ヶ月予報(３月31日広島地方気象台発表)によると、向こう１か月の平均気温は、高い確率が70％であり、ハダニ類の発生に適した気象条件が予想される。

左：寄生状況(カンザワ)、右上：ナミハダニ雌成虫(体長約0.4mm)、右下：カンザワハダニ雌成虫(体長約0.4mm)

２．防除対策および防除上の注意事項

１）薬剤散布を行う場合は、事前に葉かきを行い、葉裏に薬液が付着するよう十分な液量を丁寧に散布する。

２）取り除いた葉をほ場内に放置すると葉に寄生していたハダニ類が他の株に移動するため、取り除いた葉は必ず施設外に持ち出し、袋に入れるか埋設、焼却するなど適切に処分する。

３）薬剤の選定に当たってはミツバチ等訪花昆虫への影響を充分に考慮する。

４）薬剤の使用に当たっては、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を確認のうえ使用する。また、薬剤散布は周辺作物への飛散に十分注意する。

５）表１に示した薬剤は防除効果の低下が見られる場合があり、薬剤散布後は

ルーペ等を用い、必ず効果の確認を行う。防除効果が不十分な場合は表１の別のIRACコードの薬剤を使用するか、表２の気門封鎖剤を使用する。

３．薬剤防除（農薬登録内容は平成28年4月1日現在）

使用の際は同一系統（IRACコード）の薬剤の連用は避ける。

表１　イチゴのハダニ類に使用できる主な薬剤

系統 ※ IRACｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
6	アファーム乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内
6	コロマイト水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内
20B	カネマイトフロアブル	1000～1500倍	収穫前日まで	1回
21A	サンマイトフロアブル	1000～1500倍	収穫前日まで	1回
25A	スターマイトフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内
25A	ダニサラバフロアブル	1000倍	収穫前日まで	2回以内
25B,21A	ダブルフェースフロアブル	2000倍	収穫前日まで	1回
UN	マイトコーネフロアブル	1000倍	収穫前日まで	2回以内

※IRACコードとは殺虫剤を作用機構別に分類してつけられたもので、同じIRACコードの薬剤を連用すると殺虫剤抵抗性の発生リスクが高まるので、薬剤選択の際は注意する。なお、IRACコードについては農薬工業会ホームページで最新の情報が確認できる。

農薬工業会ホームページ http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html

参考

気門封鎖剤は薬剤抵抗性の発生リスクが低く、使用回数に制限がないため連用できる。しかし、ハダニ類に直接十分量が付着しないと防除効果がないため、丁寧に散布する必要がある。また、殺卵効果や残効性もないため、３～７日間隔で複数回散布する。なお、薬害の発生を避けるため、高温時や薬液が乾きにくい夕方の散布は控える。

表２　イチゴのハダニ類に使用できる主な気門封鎖剤

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
粘着くん液剤	100倍	収穫前日まで	－
サンクリスタル乳剤	300～600倍	収穫前日まで	－
※還元澱粉糖化物液剤	100倍	収穫前日まで	－

※薬剤名は一般名で有り該当薬剤は複数あることから使用に当たっては登録内容をよく確認する。

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所［担当：奈良井］
ＴＥＬ：０８５３－２２－６７７２
ＦＡＸ：０８５３－２４－３３４２

平成２８年度　病害虫発生予察情報　技術資料第３号

平成28年５月２日
島根県病害虫防除所

イチゴにおけるアブラムシ類の発生状況について

現在、イチゴのアブラムシ類（主にワタアブラムシ）の発生は、発生ほ場率、寄生株率とも平年に比べて高く推移しています。現地では発生状況の把握に努めるとともに、薬剤散布など適切な防除対策をお願いします。

記

１．現在の発生状況

１）平成28年４月下旬の巡回調査における発生量は、ほ場率55.6％（平年20.2％）、寄生株率13.3％（平年3.2％）と多かった。

２）１ヶ月予報(４月28日広島地方気象台発表)によると、向こう１か月の平均気温は、高い確率が70％であり、アブラムシ類の発生に適した気象条件が予想される。

左：ワタアブラムシの寄生状況、
右上：無翅胎生雌虫、右下：有翅胎生雌虫

２．防除対策および防除上の注意事項

１）アブラムシ類は部分的に発生することがあるので、ほ場全体をよく観察し、発生を認めたら直ちに防除する。

２）薬剤散布後はルーペ等を用い、必ず効果の確認を行う。

３）ワタアブラムシは葉裏よりも果実のヘタ部やクラウン上部の葉に寄生することが多いので、これらの部位を中心に調査すると発生が的確に把握できる。

３．薬剤防除（農薬登録内容は平成28年4月28日現在）

１）薬剤の選定に当たってはミツバチ等訪花昆虫への影響を充分に考慮する。

２）薬剤の使用に当たっては、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を確認のうえ使用する。また、薬剤散布は周辺作物への飛散に十分注意する。

３）使用の際は同一系統（IRACコード）の薬剤の連用は避ける。

表１　イチゴのアブラムシ類に使用できる主な薬剤

系統 ※ (IRACｺｰﾄﾞ)	薬剤名	希釈倍率等	使用時期	使用回数
４Ａ	モスピランジェット	50g/くん煙室容積400m^3	収穫前日まで	２回以内
	モスピラン水溶剤	2000倍	収穫前日まで	
４Ａ	バリアード顆粒水和剤	2000倍	収穫前日まで	３回以内
４Ａ	ベストガード水溶剤	1000倍	収穫前日まで	３回以内
９Ｂ	チェス顆粒水和剤	5000倍	収穫前日まで	３回以内
９Ｃ	ウララＤＦ	2000～4000倍	収穫前日まで	２回以内
２１Ａ	ピラニカＥＷ	2000倍	収穫前日まで	２回以内
２１Ａ，１Ａ	シーマジェット	75g/くん煙室容積400m^3	収穫前日まで	２回以内
２１Ａ	ハチハチフロアブル	1000倍	収穫前日まで	２回以内
２１Ａ	サンマイトフロアブル	1000～1500倍	収穫前日まで	１回以内
２８	ベネビアＯＤ	2000倍	収穫前日まで	３回以内
２８	モベントフロアブル	2000倍	収穫前日まで	３回以内
ｕｎ	コルト顆粒水和剤	3000～4000倍	収穫前日まで	３回以内

※IRACコードとは殺虫剤を作用機構別に分類してつけられたもので、同じIRACコードの薬剤を連用すると殺虫剤抵抗性の発生リスクが高まるので、薬剤選択の際は注意する。なお、IRACコードについては農薬工業会ホームページで最新の情報が確認できる。

農薬工業会ホームページ http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所［担当：磯田・奈良井］
TEL：0853-22-6772　FAX：0853-24-3342

平成 28 年度　病害虫発生予察情報　技術資料第 4 号

平成 28 年 5 月 27 日
島根県病害虫防除所

稲こうじ病の防除対策について

稲こうじ病の発生は、昨年はやや減少したものの、近年は多発生の状況が続いています。本病の発生には穂ばらみ期以降の気象が大きく影響します。3 か月予報（5 月 25 日広島地方気象台発表）によると、8 月の気象は気温が平年に比べ高く、降水量はほぼ平年並みと予報され、本病の発生にはやや抑制的と考えられます。しかし、昨年多発生したほ場などの本病が発生しやすいほ場では、本年も発生が懸念されますので適切な防除対策をお願いします。

1）稲こうじ病の発生しやすい気象条件
・穂ばらみ期以降の高湿度、降雨、日照不足

2）稲こうじ病の発生しやすいほ場
・近年、発生の多かったほ場
・移植時期の遅いほ場
・出穂期が 8 月 15 日頃より遅いほ場
・窒素が多施用されたほ場

3）稲こうじ病の伝染環
・土壌中の厚壁胞子が発芽してイネの根や葉鞘の細胞間隙から侵入すると考えられている。
・種子伝染の可能性は低いと考えられている。

図 1　稲こうじ病の発生株

図 2　厚壁胞子と二次分生子

４）稲こうじ病の薬剤防除

・散布剤は、出穂 10～20 日前、粒剤は出穂２～３週間前に散布します。

・稲こうじ病は薬剤の散布適期が短いので注意が必要です。

成分	商品名（例）	散布量（10a当り）	使用時期／使用回数
①	ドイツボルドーＡ	2000倍（60～150ﾘｯﾄﾙ）	出穂10日前まで／－
	Zボルドー粉剤DL	３～４kg	出穂10日前まで／－
	ホクコー散粉ボルドー粉剤DL	３～４kg	出穂10日前まで／－
②	ラテラ粉剤DL	３～４kg	収穫14日前まで／3回以内
	MICラブサイドベフラン粉剤ＤＬ	３～４kg	穂ばらみ期～穂揃い期 (但し、収穫14日前まで）／3回以内
	フジワンベフラン粉剤DL	３～４kg	収穫14日前まで／２回以内
③	モンガリット粒剤	３～４kg	収穫45日前まで／2回以内
	モンガリット１キロ粒剤	１～1.3kg	収穫45日前まで／2回以内
④	フジワン粒剤	４kg	出穂10～30日前 (但し、収穫30日前まで）／２回以内
	フジワン１キロ粒剤	１kg	出穂10～30日前 (但し、収穫30日前まで）／２回以内
⑤	ブラシンフロアブル	1000倍（60～150ﾘｯﾄﾙ）	収穫７日前まで／2回以内
	ブラシン粉剤DL	４kg	収穫７日前まで／2回以内
	ノンブラスフロアブル	1000倍（60～150ﾘｯﾄﾙ）	収穫７日前まで／2回以内
	ノンブラス粉剤DL	４kg	収穫７日前まで／2回以内
⑥	トップジンMゾル	1000倍（60～150ﾘｯﾄﾙ）	収穫14日前まで／3回以内

成分欄の区分　①銅、②イミノクタジン酢酸塩、③シメコナゾール、④イソプロチオラン、
⑤フェリムゾン、⑥チオファネートメチル

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所［担当：奈良井・山本］
ＴＥＬ：０８５３－２２－６７７２
ＦＡＸ：０８５３－２４－３３４２

平成２８年度　病害虫発生予察情報　技術資料第５号

平成 28 年９月５日
島根県病害虫防除所

ダイズ及びアブラナ科野菜等におけるハスモンヨトウの発生状況について

現在、ダイズ及びキャベツにおけるハスモンヨトウの発生は、発生圃場率、寄生株率とも平年に比べて高く推移しています。現地では発生状況の把握に努めるとともに、薬剤散布など適切な防除対策をお願いします。

記

１．現在の発生状況

１）８月下旬のダイズでの巡回調査における本種幼虫による１a 当たりの白変か所数は 1.2 か所（平年 0.3 か所）と平年より多く、発生圃場率は 53.3%(平年 20.9%)と平年よりやや多い。

２）８月下旬のキャベツでの巡回調査における発生圃場率は 16.7%(平年 6.7%)、寄生株率は 1.7%（平年 0.9%）で平年よりやや高い。

３）フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数(７月上旬～８月末)は、県東部で平年比 138.4%（やや多い）、県西部でも 132.4%（やや多い）であった。また、８月６半旬から９月１半旬に大量の誘殺があった(表３参照)。

４）１ヶ月予報(９月１日広島地方気象台発表)によると、向こう１か月の平均気温は、高い確率が 60%であり、ハスモンヨトウの発生に適した気象条件が予想される。

２．防除対策および防除上の注意事項

１）ハスモンヨトウ幼虫の発生は９月２半旬以降に多くなると考えられる。

ダイズの白変葉

幼虫

卵塊

３．耕種法による防除

ダイズ：白変葉の発生に注意し、発生した場合は若齢幼虫を葉ごと切り取る。

４．薬剤防除（農薬登録内容は平成 28 年９月現在）

１）薬剤の選定に当たってはミツバチ等訪花昆虫への影響を充分に考慮する。

２）薬剤の使用に当たっては、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を確認のうえ使用する。また、薬剤散布は周辺作物への飛散に十分注意する。

３）使用の際は同一系統（IRAC コード）の薬剤の連用は避ける。

表１　ダイズとキャベツ、ハクサイのハスモンヨトウの防除に使用できる主な薬剤

薬剤名	希釈倍率等	収穫前日数/使用回数	系統 ※（IRACｺｰﾄﾞ）
ダイズ			
ラービンフロアブル	750～1000倍	14日/２回	1A
エルサン乳剤	1000倍	７日/２回	1B
ダーズバン乳剤４０	1500倍	７日/２回	1B
トレボン乳剤	1000倍	14日/２回	3A
パーマチオン水和剤	1000～2000倍	21日/３回	3A,1B
アニキ乳剤	2000～3000倍	前日/３回	6
カスケード乳剤	4000倍	７日/２回	15
マッチ乳剤	3000倍	７日/２回	15
ロムダンフロアブル	2000倍	14日/３回	18
マトリックフロアブル	2000～3000倍	前日/３回	18
トルネードエースＤＦ	2000倍	７日/２回	22A
アクセルフロアブル	1000～2000倍	前日/３回	22B
フェニックス顆粒水和剤	2000倍	７日/３回	28
プレバソンフロアブル５	4000倍	７日/２回	28
ベネビアＯＤ	2000～4000倍	７日/３回	28
プレオフロアブル	1000～2000倍	７日/２回	UN
キャベツ			
ラービンフロアブル	750～1000倍	７日/４回	1A
エルサン乳剤	1000倍	14日/２回	1B
ディアナＳＣ	2500～5000倍	前日/２回	5
アファーム乳剤	1000～2000倍	前日/３回	6
アニキ乳剤	1000～2000倍	３日/３回	6
ガンバ水和剤	1500倍	21日/２回	12A
コテツフロアブル	2000倍	前日/２回	13
カスケード乳剤	4000倍	７日/２回	15
マッチ乳剤	3000倍	７日/２回	15
ロムダンフロアブル	2000～4000倍	前日/２回	18
マトリックフロアブル	2000倍	７日/４回	18
トルネードエースＤＦ	2000倍	７日/２回	22A
アクセルフロアブル	1000～2000倍	前日/３回	22B
フェニックス顆粒水和剤	2000～4000倍	前日/３回	28
プレバソンフロアブル５	2000倍	前日/３回	28
ベネビアＯＤ	2000～4000倍	前日/３回	28
プレオフロアブル	1000倍	７日/２回	UN
ハクサイ			
ラービンフロアブル	750～1000倍	７日/２回	1A
エルサン乳剤	1000倍	21日/３回	1B
ディアナＳＣ	2500～5000倍	前日/２回	5
アニキ乳剤	1000～2000倍	３日/３回	6
コテツフロアブル	2000倍	前日/２回	13
ロムダンフロアブル	2000～4000倍	前日/２回	18
アクセルフロアブル	1000～2000倍	前日/３回	22B
フェニックス顆粒水和剤	2000～4000倍	前日/３回	28
プレバソンフロアブル５	2000倍	前日/３回	28
ベネビアＯＤ	2000～4000倍	前日/３回	28

※表２注を参照

表２　ダイコンとブロッコリー、ソバのハスモンヨトウの防除に使用できる主な薬剤

薬剤名	希釈倍率等	収穫前日数/使用回数	系統（注 (IRACｺｰﾄﾞ)
ダイコン			
ラービンフロアブル	1000倍	７日／２回	1A
エルサン乳剤	1000倍	30日／２回	1B
アタブロン乳剤	2000倍	14日／３回	15
ブロッコリー			
エルサン乳剤	1000倍	30日／２回	1B
ディアナＳＣ	2500～5000倍	前日／２回	5
アニキ乳剤	1000～2000倍	３日／３回	6
コテツフロアブル	2000倍	前日／２回	13
カスケード乳剤	4000倍	７日／２回	15
マッチ乳剤	3000倍	７日／２回	15
ファルコンフロアブル	4000倍	３日／２回	18
アクセルフロアブル	1000～2000倍	前日／２回	22B
フェニックス顆粒水和剤	2000～4000倍	前日／２回	28
プレバソンフロアブル５	2000倍	前日／３回	28
ベネビアＯＤ	2000～4000倍	前日／３回	28
プレオフロアブル	1000倍	７日／２回	UN
ソバ			
ロムダン粉剤ＤＬ	４kg/10a	21日／２回	18
ロムダンフロアブル	2000倍		18
フェニックス顆粒水和剤	2000～6000倍	７日／２回	28

注：IRAC コードとは殺虫剤を作用機構別に分類してつけられたもので、同じ IRAC コードの薬剤を連用すると殺虫剤抵抗性の発生リスクが高まるので、薬剤選択の際は注意する。なお、IRAC コードについては農薬工業会ホームページで最新の情報が確認できる。
農薬工業会ホームページ http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html

５．付　　表

表３ フェロモントラップによるハスモンヨトウの雄成虫の半旬別誘殺数(頭)

調査地点		調査時期							
		７月			８月				９月
		６半旬	１半旬	２半旬	３半旬	４半旬	５半旬	６半旬	１半旬
出雲市	本 年	7	40	31	25	52	27	**281**	**304**
	平 年	27.1	19.3	29.8	45.6	45.4	48.7	54.2	70.5
益田市	本 年	10	50	85	70	57	60	**625**	－
	平 年	34.4	18.1	35.3	62.4	72.8	111.4	127.1	115.1

Ⅶ）気象表（平成28年）

観測地点：出雲市芦渡町２４４０（海抜２０ｍ）

月	半旬	平均気温 本年	平均気温 平年	最高気温 本年	最高気温 平年	最低気温 本年	最低気温 平年	降水量 本年	降水量 平年	日照時数 本年	日照時数 平年
1	1	9.6	5.4	13.2	9.1	4.9	1.7	1.0	19.1	15.3	9.7
	2	6.6	5.0	8.8	8.6	3.6	1.4	7.5	20.3	2.8	9.1
	3	4.4	4.8	6.3	8.3	1.8	1.2	24.0	21.0	2.5	9.0
月	4	2.9	4.5	6.5	8.0	-0.3	0.9	55.0	20.5	7.6	8.9
	5	0.9	4.2	3.7	7.7	-1.2	0.7	29.5	18.9	3.0	8.6
	6	6.0	4.0	8.6	7.6	3.2	0.5	51.5	20.2	6.2	11.6
合計，平均		5.1	4.7	7.9	8.2	2.0	1.1	28.1	20.0	6.2	9.5
2	1	5.1	4.2	8.3	7.9	2.3	0.4	9.0	15.3	11.4	11.5
	2	4.0	4.6	8.8	8.5	-0.1	0.6	13.0	15.2	21.0	12.8
	3	9.0	4.9	15.0	9.0	3.1	0.7	60.0	16.8	13.9	13.7
月	4	5.6	4.9	8.7	9.2	2.2	0.7	40.0	18.7	15.9	14.9
	5	3.8	5.1	7.9	9.4	-0.5	0.7	2.5	20.0	8.9	16.1
	6	5.9	5.4	11.9	9.8	0.5	0.9	51.0	16.4	13.8	13.6
合計，平均		5.6	4.9	10.1	9.0	1.3	0.7	29.3	17.1	14.2	13.8
3	1	8.7	5.8	13.6	10.3	3.3	1.2	12.5	20.3	29.5	18.1
	2	10.8	6.4	13.8	11.1	8.1	1.6	24.5	18.9	7.7	20.0
	3	5.2	7.2	10.2	12.0	0.9	2.0	8.0	18.6	22.3	22.1
月	4	10.0	7.8	15.5	12.7	3.4	2.5	26.5	19.6	27.9	23.4
	5	7.1	8.3	12.5	13.3	1.1	2.9	0.0	20.5	32.4	23.5
	6	9.7	9.0	15.8	14.0	2.9	3.5	1.0	24.0	40.5	29.5
合計，平均		8.6	7.4	13.6	12.2	3.3	2.3	12.1	20.3	26.7	22.8
4	1	13.8	10.0	18.5	15.3	9.4	4.2	14.0	18.9	19.9	27.6
	2	13.5	11.1	19.7	16.4	7.8	5.2	60.5	18.9	28.3	29.3
	3	12.7	12.0	17.9	17.4	6.7	6.2	11.0	19.0	34.5	29.8
月	4	14.6	12.9	20.6	18.3	7.0	7.1	9.5	18.4	37.6	30.5
	5	15.0	13.8	20.5	19.3	9.8	7.9	21.5	17.6	26.6	31.7
	6	13.9	14.7	19.7	20.2	7.8	8.7	47.0	18.3	31.6	33.1
合計，平均		13.9	12.4	19.5	17.8	8.1	6.6	27.3	18.5	29.8	30.3
5	1	17.7	15.6	23.0	21.1	11.7	9.7	6.0	20.8	45.9	33.2
	2	17.0	16.2	21.1	21.6	12.3	10.5	33.0	23.1	15.8	32.2
	3	16.8	16.5	22.7	21.8	10.3	10.9	10.0	23.6	42.7	32.1
月	4	17.2	17.0	25.9	22.2	8.6	11.5	34.0	21.2	54.4	33.2
	5	20.2	17.6	27.7	22.9	13.2	12.1	4.5	19.1	41.6	34.4
	6	20.1	18.4	24.4	23.7	16.0	12.9	12.0	23.3	24.6	41.3
合計，平均		18.2	16.9	24.1	22.2	12.0	11.3	16.6	21.9	37.5	34.4
6	1	18.6	19.2	24.4	24.5	12.5	13.9	8.0	18.0	38.4	33.6
	2	21.6	20.0	26.7	25.3	17.8	14.8	32.0	16.6	24.5	32.1
	3	22.6	20.6	27.5	25.8	18.1	15.8	17.5	21.0	25.4	30.0
月	4	22.7	21.3	26.6	26.0	18.5	17.0	31.5	34.4	29.9	26.0
	5	23.0	21.8	27.0	26.2	20.4	18.0	51.5	51.3	9.4	21.3
	6	22.0	22.4	25.9	26.5	18.1	18.9	12.0	60.2	22.5	19.7
合計，平均		21.8	20.9	26.4	25.7	17.6	16.4	25.4	33.6	25.0	27.1

＊：準正常値(品質に軽微な問題があるか、または統計値を求める対象となる資料の一部が許容する範囲内で欠けている)を含む値。

月	半旬	平均気温 本年	平均気温 平年	最高気温 本年	最高気温 平年	最低気温 本年	最低気温 平年	降水量 本年	降水量 平年	日照時数 本年	日照時数 平年
7	1	26.4	23.2	31.1	27.1	23.0	19.7	41.0	55.7	24.0	21.5
	2	25.5	24.0	29.4	27.9	22.4	20.5	0.5	51.1	34.2	22.9
	3	25.1	24.6	28.9	28.7	22.5	21.1	18.5	51.4	13.5	24.3
	4	25.0	25.2	29.2	29.4	21.1	21.6	0.0	45.0	44.1	28.9
月	5	25.5	25.8	30.1	30.2	21.4	22.0	0.0	31.1	31.6	34.2
	6	27.8	26.3	32.5	30.9	23.3	22.3	0.0	22.6	48.6	43.9
合計, 平均		25.9	24.9	30.2	29.0	22.3	21.2	10.0	42.8	32.7	29.3
8	1	27.5	26.6	33.5	31.4	22.5	22.4	0.0	15.8	52.5	36.9
	2	27.5	26.6	34.1	31.6	22.5	22.4	0.0	18.3	50.5	36.0
	3	27.1	26.5	32.9	31.4	21.0	22.5	2.5	20.6	54.5	34.2
	4	26.9	26.2	32.7	31.0	22.9	22.2	31.5	21.0	39.3	33.2
月	5	27.6	25.8	33.1	30.6	23.2	21.7	0.0	20.9	45.5	32.5
	6	22.8	25.2	26.9	30.2	20.1	21.0	129.0	27.3	17.6	37.3
合計, 平均		26.6	26.2	32.2	31.0	22.0	22.0	27.2	20.7	43.3	35.0
9	1	25.1	24.4	30.6	29.3	21.0	20.3	14.5	27.6	19.6	28.5
	2	23.7	23.4	28.5	28.2	20.6	19.4	27.0	32.0	28.3	26.2
	3	22.5	22.5	26.3	27.3	19.6	18.4	95.0	32.6	13.7	25.4
	4	21.6	21.6	24.3	26.5	19.9	17.3	100.0	31.6	2.8	25.4
月	5	21.2	20.5	25.7	25.5	17.6	16.2	4.5	30.4	23.6	24.7
	6	22.1	19.5	26.0	24.5	18.9	15.1	58.5	26.6	7.6	24.0
合計, 平均		22.7	22.0	26.9	26.9	19.6	17.8	49.9	30.1	15.9	25.7
10	1	22.7	18.6	28.2	23.7	19.6	14.0	10.0	21.3	17.5	24.3
	2	19.5	17.8	24.0	23.1	16.0	13.0	42.0	18.9	27.0	25.4
	3	15.2	16.9	21.4	22.4	10.1	11.8	0.0	18.8	27.4	26.6
	4	19.1	15.8	24.1	21.4	14.8	10.6	42.5	18.6	16.7	26.9
月	5	16.1	14.8	20.7	20.4	10.9	9.7	7.5	17.5	13.6	25.4
	6	14.6	14.0	18.3	19.5	11.3	8.9	18.0	21.5	10.8	28.4
合計, 平均		17.9	16.3	22.8	21.8	13.8	11.3	20.0	19.4	18.8	26.2
11	1	13.3	13.4	17.5	18.8	7.4	8.3	1.0	18.9	26.5	22.7
	2	10.4	12.8	14.5	17.9	5.3	7.9	16.0	19.8	10.1	21.0
	3	13.4	11.9	19.2	16.7	7.9	7.2	6.0	20.4	18.1	18.0
	4	13.6	10.9	18.4	15.5	8.8	6.1	33.5	19.1	16.7	16.6
月	5	10.7	10.0	14.5	14.7	7.6	5.2	13.0	18.8	14.3	15.7
	6	10.0	9.3	13.0	13.8	7.0	4.8	24.0	21.5	9.2	14.3
合計, 平均		11.9	11.4	16.2	16.2	7.3	6.6	15.6	19.8	15.8	18.1
12	1	11.5	8.6	16.0	12.9	6.8	4.3	14.0	23.8	17.7	13.2
	2	9.0	8.0	12.8	12.1	4.5	3.8	12.5	22.9	8.8	12.1
	3	6.6	7.4	10.6	11.2	3.0	3.4	47.5	20.5	11.4	11.2
	4	8.3	6.9	12.4	10.6	3.7	3.0	17.5	18.6	15.0	11.0
月	5	9.7	6.5	14.3	10.3	5.6	2.6	48.5	17.8	17.8	11.5
	6	6.5	6.0	9.6	9.8	2.5	2.1	79.5	21.5	7.3	13.1
合計, 平均		8.6	7.2	12.6	11.2	4.4	3.2	36.6	20.9	13.0	12.0

西暦年の1位が1の年から数えて、連続する30年間について算出した累年平均値を平年値という。これをその統計期間に引き続く10年間使用し、10年ごとに更新する。したがって2011～2020年の間は、1981～2010年(昭和46～平成12年)の資料から算出された平年値を使用する。

平成２８年度　農作物有害動植物発生予察事業年報
２０２０年　３月　３１日　発行
編集･発行　島 根 県 農 業 技 術 セ ン タ ー
（資源環境研究部　病虫科）
島 根 県 病 害 虫 防 除 所
〒693-0035　島根県出雲市芦渡町２４４０番地
電　　話　（０８５３）２２－６７７２
Ｆ Ａ Ｘ　（０８５３）２４－３３４２